

# 魚沼市行政評価 施策評価 実施結果報告書

---

令和4年度実施施策

---

【第二次魚沼市総合計画 後期基本計画 主要施策を構成する施策】

令和5年9月



魚 沼 市

# 目次

## I 施策評価の実施にあたって

1 はじめに	1
2 施策評価の概要	2
3 施策評価の方法	6
4 一次評価及び二次評価の結果	8
5 外部評価の結果	14

## II 評価結果総括

1 評価結果の概要	26
2 行政評価における今後の取組	28
3 評価結果の活用方法	28

# I 施策評価の実施にあたって

## 1 はじめに

行政評価制度は、行政コストの削減、職員の意識改革、成果重視の行政サービスの確立など、地方行政改革を推進するための有効な手法であり、限られた行政経営資源の中にあって、的確な配分を行いながら、行政が行っている様々な活動が市民の役に立っているかを絶えず点検し改善を図っていく仕組みです。

本市においては、評価作業を通じて従来までの事業プロセスや実行方法を見直すことにより、職員一人ひとりが自己の担当業務への意識を高め、その結果として全庁的な行財政改革や市民サービスの向上につなげていくことを目的として行政評価を実施しています。

本市におけるこれまでの行政評価の取組としては、平成 18 年度に事務事業を評価対象として試行的に実施し、その後、職員研修や先進地事例等の調査研究を経て、平成 21 年度に総合計画前期基本計画第 2 期実施計画に登載している事業のうち 55 事業を対象として本格導入しました。2 年目の平成 22 年度においても同様に 55 事業を対象として行政評価を実施し、平成 23 年度からは、総合計画後期基本計画第 1 期実施計画に登載している事業全てを対象として実施してきました。

平成 28 年度から第二次総合計画がスタートしたことを契機として、これまでの事務事業評価よりも一階層上の施策評価を事務事業評価に加え実施することとし、併せて、透明性及び客観性を確保することを目的として、平成 29 年度からは総合計画審議会による外部評価も実施しています。

本報告書は、令和 4 年度に実施した 62 施策の一次評価から二次評価までの結果とそこから抽出した 12 施策について外部評価の結果をとりまとめたものです。

## 2 施策評価の概要

第二次魚沼市総合計画後期基本計画における政策を構成する 62 施策を対象としています。

分野	基本目標	政策	施策	別冊 ページ
【第1節】 生活基盤	安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり	安心で便利な生活基盤の整備	道路網の整備	1
			道路機能の維持向上	3
			ライフラインの維持向上	5
		快適な暮らしを支える生活環境の整備	公共交通の持続可能な地域交通網の推進	7
			情報通信基盤の整備と活用	9
			住環境の整備	11
		暮らしを守る防災体制の整備	自助・共助・公助の仕組みの充実	13
			自助・共助を支える支援体制の強化	15
			防災基盤の強化	17
			豊かな自然と美しい景観の保全	19
【第2節】 環境衛生・自然	豊かな自然と人が共生するまちづくり	豊かな自然の保全と育成	森林と里山の再生	21
			野生鳥獣との共生	23
			自然環境を活用した地域づくりの推進	25
		自然の恵みを活かす仕組みづくりの推進	森林資源の利活用の推進	27
			環境教育と環境学習の推進	29
		自然に親しみ、学び、誇りを持てるふるさとの創造	市民協働による環境保全活動の推進	31
			ごみの減量化とリサイクルの推進	33
		循環型社会環境の整備	地球温暖化対策の推進	35
			公害の抑制と生活環境の保全	37

分野	基本目標	政策	施策	別冊 ページ
【第3節】 健康・福祉	生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり	心身ともに健康で笑顔あふれる暮らしの創造	健康づくりの推進	39
			疾病予防と重症化防止対策の推進	41
		安心して産み育てる喜びを感じることができる社会の構築	子育て支援	43
			子育て環境の充実	47
		市民が安心して暮らせる仕組みの構築	すべての市民が自立できる環境の構築	49
			安心して暮らせる公共空間の整備	51
		高齢者が安心して生き生きと暮らせる仕組みの構築	暮らしの支援体制の推進	53
			高齢者の社会参加の推進	55
		誰もが健康管理ができる安心で身近な地域医療の充実	健康管理システムの充実	57
			医療資源の育成	59
【第4節】 産業	豊かな地域資源を活かした力強い産業を創るまちづくり	地域資源の活用による産業の振興	新たな特産品づくり、ブランド化の推進	61
			新製品開発や新技術の確立に向けた取組の支援	63
		魅力ある農林業の振興	力強い農業経営の構築と地域農業の活性化	65
			森林・里山を活用した地域の活性化	69
		商工観光業の競争力強化	競争力強化に向けた商工業者への支援	71
			地域資源を最大限に活かした観光の振興	73
		雇用機会の拡充と地域の担い手の確保	起業の促進	75
			定住人口確保のための取組の強化	77
			戦略的な人財確保・企業誘致の推進	79

分野	基本目標	政策	施策	別冊 ページ
【第5節】 教育・文化	私たちが育む学 びのまちづくり	生涯学び続ける仕組みの 充実	誰でも、いつでも学べ、学習成果を生 かす仕組みの充実	81
			生涯学習推進体制の充実	83
			効率的・効果的な施設運営	85
		乳幼児期の教育の充実	明るくのびのびとした子育て	87
			乳幼児教育の仕組みづくり	89
			子育て環境の整備	91
		市民が参加する学校づく りの推進	自然や文化を活用し生きる力を育む教 育の推進	93
			市民が参加し世代を越えて交流する 地域に開かれた学校づくり	97
			安全・安心な学校施設の整備	99
		潤いのある地域文化や芸 術の振興と創造	芸術・文化活動の促進	101
			地域文化の振興と発信	103
			文化財の保護と活用	105
		楽しく質の高いスポーツ・ レクリエーションの振興	誰でも楽しく健康づくりができる活動の 推進	107
			スポーツ活動推進のための体制強化	109
			スポーツにおける広域連携の推進	111
【第6節】 市民協働・自治 体運営	市民の想いを活 かした未来へつ なぐまちづくり	市民参画と行政との協働 の推進	まちづくりへの市民参画の推進	113
			協働体制の充実	115
		市民参画による地域づく りの推進	支え合う地域づくりの支援	117
			地域づくりの活性化	119
			地域づくりに向けた移住・定住の促進	121
		市民に信頼される開かれ た行政運営	効率的で効果的な行政運営	123
			わかりやすい行政情報の発信と職員 の能力向上	125
		選択と集中による財政運 営	行政改革の継続とデジタル化の推進	127
			健全な財政運営	129

## ■評価のサイクル

事前評価は、予算編成に先立つ令和3年度9月から10月にかけて計画策定と同時に、事後評価は、一次評価及び二次評価について、事業が完了した後の令和5年5月から7月にかけて実施しました。

以下に示すスケジュール表のとおり、事前評価から事後評価までの1つの評価サイクルが完結するまでにおよそ24か月を要することとなります。

## ■令和4年度実施施策の評価スケジュール

### 【令和3年度】

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
担当課		事前評価実施		予算編成				
行政評価会議						事前評価結果報告		

### 【令和4年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
担当課	事業実施		事業実施									
行政評価会議												

### 【令和5年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
担当課		一次評価実施				
行政評価会議			二次評価実施		事後評価結果報告書作成	
総合計画審議会				外部評価実施		庁議報告
						HP等により公表

### 3 施策評価の方法

#### ■一次評価及び二次評価の方法（内部評価）

施策評価では、施策担当部署において、施策を構成する事業の事業費、取組内容や評価、成果指標の達成状況、施策目的に向かってどのような成果があったのかなど、各施策に対する前年度の状況について記載しました。

施策に対する評価については、一次評価（施策担当部署評価）及び二次評価（行政評価会議<sup>\*1</sup>評価）ともに、「施策成果の達成度」「貢献度」の2つの観点から「観点評価」を行った後、それらを含めた「総合評価」を行いました。また、「課題」及び「今後の方向性」では記述式で評価を行いました。

#### ◆評価項目と評価の内容

評価項目	評価内容
観点評価	<p>施策評価では、施策を構成する事務事業の達成状況や貢献度などを見ながら、「施策成果の達成度」「貢献度」の2つの観点から各施策の評価を4段階で行いました。</p> <p><b>【観点評価】</b>  <b>ア「施策成果の達成度」の観点</b>            施策及び成果指標について、どの程度達成できたかという観点から評価を行いました。  <b>イ「貢献度」の観点</b>            施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当か、当該施策の成果が「施策目的」に明確に貢献しているかという観点から評価を行いました。</p> <p><b>【評価基準】</b>            高 い・・・十分な施策の展開が図られた            やや高い・・・おおむね施策の展開が図られた            やや低い・・・あまり施策の展開が図られなかった            低 い・・・まったく施策の展開が図られなかった</p>
総合評価	<p>設定した成果指標を達成できるかを念頭に置きながら、総合評価について、最も適当であると判断するものを、次の3段階から選択しました。</p> <p><b>現状維持</b>・・・細かな見直しを行いながら引き続き取組を進める  <b>拡 充</b>・・・新たな事務事業の追加や予算等の投入などを行う  <b>改善・見直し</b>・・・施策目的達成のために事務事業の見直し、改善を行う</p>
課 題	<p>施策目的の達成に向けて現在発生している問題を整理し、それを解決するためにすべきことを記述しました。</p>
今後の方向性	<p>今後の当該施策実施の方向性について記述しました。</p>

<sup>\*1</sup> 行政評価会議・・・行政評価会議規程（平成21年訓令第5号）に基づく会議。総務政策部長が主宰し、市の行政評価の推進を図ることを目的とする。会議は、総務政策部長、市民福祉部長、産業経済部長及び教育委員会事務局長で構成する。



## ■外部評価の方法

平成 28 年度から第二次総合計画がスタートし、平成 29 年度からは市の施策について透明性及び客観性を確保することを目的として、施策評価の外部評価を実施しています。

令和 4 年度実施施策の外部評価は、総合計画審議会から担っていただき、施策の選定にあたっては、施策大綱の 6 分野から各 2 施策を選定しました。

### ◆選定した外部評価対象施策

分 野	外部評価対象施策	担当課	関係課
生活基盤	公共交通の持続可能な地域交通網の推進	生活環境課	地域創生課 北部事務所
	住環境の整備	都市整備課	地域創生課
環境衛生・自然	自然環境を活用した地域づくりの推進	観光課	地域創生課 北部事務所 農林整備課 生涯学習課
	地球温暖化対策の推進	生活環境課	—
健康・福祉	すべての市民が自立できる環境の構築	福祉支援課	介護福祉課
	医療資源の育成	健康増進課	介護福祉課
産業	新たな特産品づくり、ブランド化の推進	農政課	地域創生課 企画政策課
	戦略的な人材確保・企業誘致の推進	商工課	
教育・文化	自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	学校教育課	健康増進課 農林整備課 生涯学習課
	誰でも楽しく健康づくりができる活動の推進	生涯学習課	健康増進課
市民協働 ・自治体運営	わかりやすい行政情報の発信と職員の能力向上	秘書広報課	総務人事課 市民課
	行政改革の継続とデジタル化の推進	企画政策課	子ども課

## 4 一次評価及び二次評価の結果

### 【第1節 生活基盤】

施策名	評価	ア 達成度	イ 貢献度	総合評価
道路網の整備	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
道路機能の維持向上	一次評価	高い	高い	現状維持
	二次評価	やや高い	〃	〃
ライフラインの維持向上	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
公共交通の持続可能な地域交通網の推進	一次評価	高い	高い	拡充
	二次評価	やや高い	やや高い	〃
情報通信基盤の整備と活用	一次評価	やや低い	やや低い	改善・見直し
	二次評価	〃	〃	〃
住環境の整備	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
自助・共助・公助の仕組みの充実	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
自助・共助を支える支援体制の強化	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
防災基盤の強化	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃

【第2節 環境衛生・自然】

施策名	評価	ア 達成度	イ 貢献度	総合評価
豊かな自然と美しい景観の保全	一次評価	高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
森林と里山の再生	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
野生鳥獣との共生	一次評価	高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
自然環境を活用した地域づくりの推進	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
森林資源の利活用の推進	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	低い	やや低い	改善・見直し
環境教育と環境学習の推進	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
市民協働による環境保全活動の推進	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
ごみの減量化とリサイクルの推進	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
地球温暖化対策の推進	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
公害の抑制と生活環境の保全	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃

### 【第3節 健康・福祉】

施策名	評価	ア 達成度	イ 貢献度	総合評価
健康づくりの推進	一次評価	やや高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
疾病予防と重症化防止対策の推進	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
子育て支援	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	高い	拡充
子育て環境の充実	一次評価	高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
すべての市民が自立できる環境の構築	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
安心して暮らせる公共空間の整備	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
暮らしの支援体制の推進	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	拡充
高齢者の社会参加の推進	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
健康管理システムの充実	一次評価	高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
医療資源の育成	一次評価	高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃

#### 【第4節 産業】

施策名	評価	ア 達成度	イ 貢献度	総合評価
新たな特産品づくり、ブランド化の推進	一次評価	やや高い	高い	拡充
	二次評価	〃	〃	〃
新製品開発や新技術の確立に向けた取組の支援	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
力強い農業経営の構築と地域農業の活性化	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
森林・里山を活用した地域の活性化	一次評価	高い	やや高い	現状維持
	二次評価	やや高い	〃	〃
競争力強化に向けた商工業者への支援	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	やや低い	〃	改善・見直し
地域資源を最大限に活かした観光の振興	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
起業の促進	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
定住人口確保のための取組の強化	一次評価	やや低い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	拡充
戦略的な人財確保・企業誘致の推進	一次評価	やや低い	高い	現状維持
	二次評価	やや高い	〃	拡充

## 【第5節 教育・文化】

施策名	評価	ア 達成度	イ 貢献度	総合評価
誰でも、いつでも学べ、学習成果を生かす仕組みの充実	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
生涯学習推進体制の充実	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
効率的・効果的な施設運営	一次評価	やや低い	やや高い	拡充
	二次評価	〃	〃	〃
明るくのびのびとした子育て	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
乳幼児教育の仕組みづくり	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
子育て環境の整備	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進	一次評価	やや高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
市民が参加し世代を越えて交流する地域に開かれた学校づくり	一次評価	高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
安全・安心な学校施設の整備	一次評価	やや高い	高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
芸術・文化活動の促進	一次評価	やや低い	やや高い	改善・見直し
	二次評価	〃	〃	〃
地域文化の振興と発信	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	やや低い	〃	〃
文化財の保護と活用	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
誰でも楽しく健康づくりができる活動の推進	一次評価	高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
スポーツ活動推進のための体制強化	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
スポーツにおける広域連携の推進	一次評価	やや低い	やや低い	改善・見直し
	二次評価	〃	〃	〃

【第6節 市民協働・自治体運営】

施策名	評価	ア 達成度	イ 貢献度	総合評価
まちづくりへの市民参画の推進	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
協働体制の充実	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
支え合う地域づくりの支援	一次評価	やや低い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
地域づくりの活性化	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
地域づくりに向けた移住・定住の促進	一次評価	やや低い	やや高い	改善・見直し
	二次評価	〃	〃	〃
効率的で効果的な行政運営	一次評価	やや高い	やや高い	現状維持
	二次評価	〃	〃	〃
わかりやすい行政情報の発信と職員 の能力向上	一次評価	やや高い	高い	現状維持
	二次評価	やや低い	〃	改善・見直し
行政改革の継続とデジタル化の推進	一次評価	やや低い	やや高い	拡充
	二次評価	〃	〃	〃
健全な財政運営	一次評価	高い	高い	現状継続
	二次評価	〃	〃	〃

## 5 外部評価の結果

外部評価は、総合計画審議会から2班体制に分かれていただき、1班6施策、合計12施策の評価を行いました。各施策の総合評価について、二次評価までと同様に3段階で評価し、評価の理由や施策に対する意見等を筆記式で評価しました。

### (1) 施策に対する評価結果

#### 第1節 生活基盤

##### 住環境の整備

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

総合評価	現状維持
<p>評価の理由 ・ 意見等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○公営住宅等に関してはコンパクトシティに向けての方針を考えているので、このまま進めてよいのではないかと思う。</li> <li>○雪に悩まないまちづくりを進めていくことで、移住定住の促進にもつながることが期待できるため、降雪に関係する支援や公営住宅の整備などをこの先も着実に進めていくことが大切である。</li> <li>○公営住宅の新築はせずに、民間に建てさせて、補助金を出すのがよいと考える。</li> <li>○空き家に関しては、民間と情報共有して有効利用していただきたい。</li> <li>○移住定住に関しての方策はもう少し予算を計上すべきではないか。</li> <li>○次回以降の審議にて、評価対象として選定される指標について再考いただきたい。</li> <li>○空き家バンク登録件数は「累計」で目標値を挙げているが、申請取下げも多い。カッコ書きで単年度の実数を記載したほうが分かりやすいと考える。</li> <li>○目的は、空き家を有効利用し、補助金も含め移住定住者を増やすことにある。魚沼市は370件もの空き家があると聞いているが、空き家バンクの登録件数ではなく、申請取下げが多い理由や個人で空き家を購入し「リフォーム」して賃貸する方もいることから、不動産事業者との連携だけではなく、個人の方も含め幅広く情報を取っていただきたい。</li> <li>○他の市町村の状況も調べてみてはどうか。</li> </ul>



## 公共交通の持続可能な地域交通網の推進

一次評価：拡充／二次評価：拡充

総合評価	拡充
<p>評価の理由 ・ 意見等</p>	<p>○公共交通網については将来にわたって維持・確保していくものと考え、行政や交通事業者、福祉団体、集落支援員など多様な関係者が連携し、移動需要の把握や利用者の掘り起こしなどにより、持続可能な運営に向け効果的かつ効率的に運営されるよう、実施することが求められている。</p> <p>○基幹病院に通院するのに毎回浦佐駅から30分歩くということを知った。その30分歩くために、運動教室に通うという目的とのことだ。(あまり交通網には期待していない。)さらなる拡充を期待したい。</p> <p>○人口減少社会の中で交流人口の拡大を目指すなら、外からのお客様も利用しやすい二次交通にしなければならない。</p> <p>○観光に力を入れている地域に共通の公共交通は市民も来訪者も誰でもが利用できる形になっているが魚沼市はどうか。栃尾又路線の時間変更はチェックアウト時間に合わないミスマッチが行われている。補助金を出すなら時間表も実態に合わせたものにすべきである。</p> <p>○超高齢化社会を迎え交通弱者が急増する中、スクールバスやタクシーなど市内の交通資源を総合的に組み合わせ、抜本的に組立て直す必要がある。</p> <p>○将来的に進む高齢化に対する施策は必要ではあるが、有効性についても確保しなければならないので、検証の基準が必要ではないか。</p> <p>○乗り合いタクシー等で運用地域から外れている地域がある。人口の減少、地域開発等で諸事情が変わってきているので、政策の穴がないように検討・見直しを含めて取り組んでもらいたい。</p> <p>○成果にある「公共交通空白地が解消されています。」という記述は問題があるように思われる。</p> <p>○「住民1人あたりの乗り合いタクシー等利用回数」が成果指標として適当なのか疑問である。単純な数字では評価できないのではないか。また、利用したくても時間、本数などが不備で利用できないのではないか。</p> <p>○今後、乗合タクシーの利用者数の把握に際し、利用箇所や利用者の年齢も分析したり、いつ、どこでどんな人が利用を望んでいるのか、5年に1回くらいの頻度でアンケート等によりデータ分析を行ったりすることも必要ではないか。</p> <p>○7月15日に新潟日報に掲載されていた村上市の「村上市山北地域における公共交通再編」のように国土交通省から事業支援を受ける取組も有効と考える。</p>

## 第2節 環境衛生・自然

### 自然環境を活用した地域づくりの推進

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

総合評価	拡充
<p><b>評価の理由</b></p> <p>・</p> <p><b>意見等</b></p>	<p>○交流人口拡大の取組は重要なことであり、特に、教育体験旅行等の受入は、来訪者の確保とともに魚沼市ファンの創出が期待できる。学校単位の受入に加え親子を対象とした新たな受入プログラムの開発や受入環境の整備を図るなど、工夫しながら強みであるこれらの取組を拡大していくことが必要と考える。</p> <p>○社会情勢を見るとただ単に見学する観光から体験型観光にニーズがシフトしていると感じる。コロナ感染症の影響でアウトドア、キャンプの人気も高まっており、自然豊かな魚沼市の自然体験型観光は、今後も需要が拡大する可能性があり、この施策は拡充と判断した。</p> <p>○昨年度から「地域づくり振興公社」が観光協会に合併したことにより、体験交流の営業が強化された。友好都市からの体験学習は予定通りの成果を得た。新型コロナウイルス感染症により観光産業は大きなダメージを受けたが、今春5類に移行したことにより、来訪者獲得のため地域間競争が激しさを増している。引き続き様々な支援策や競争に勝てる体制づくりが望まれる。</p> <p>○魚沼特使、在京郷人会についてはコロナ禍以来交流が行われていない。また、この間、在京郷人会の解散が相次ぎ、広神会が名称を魚沼会に改め従前の町村単位の郷人会の枠を上げオール魚沼での取組が始まった。市としても魚沼会への支援をして行かなければならない。</p> <p>○85%の森林と利雪の切り口から発想願いたい。今後の交流事業に期待する。</p> <p>○足立区の学生の受入れは、地元の民宿にとってもありがたい。体験に関わる地域の方も生き生きとした姿が見られる。魚沼の魅力である自然や人の温かさをこれからもたくさんの方に感じてもらえるように取り組んでいけたら地域の活性化につながると考える。</p> <p>○トレイルラン、マラソン、パラグライダーなどスポーツという観点から見ると、魚沼の自然はまだまだ可能性が眠っていると感じる。</p> <p>○年代の移行とともに交流団体も変わってきている。市から出た人の2代目、3代目の方々の要求に合うよう変化する必要があるので、改善・見直しも含めて検討してもらいたい。</p>

## 地球温暖化対策の推進

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

総合評価	現状維持
<p>評価の理由 ・ 意見等</p>	<p>○市としてのハード面の対応は現状維持でよいと思う。</p> <p>○教育の中で地球温暖化についての対処方法等のカリキュラムを作成し取り組むべきと考える。</p> <p>○小学生・中学生といった教育課程の中に、ある程度学習する機会を取り入れる又は増やすことで、将来を見据えての意識啓発につながると考える。</p> <p>○今やっていることだけでは「2050 カーボンニュートラル」は達成できない。ごみ処理発電や小水力発電を検討してはどうか。</p> <p>○「再生可能エネルギー機器設置件数」を目標値にしているが、これは太陽光パネルや薪ストーブなどの設置に対し市が補助金を出した件数であるとのことであった。「地球温暖化対策」「2050 カーボンニュートラル」を掲げた施策であるが、あまりにもかけ離れた目標設定ではないか。補助金の件数ではなく、省エネ効果を具体的な数字に置き換えての目標値にするべきと考える。</p> <p>○例えば、省エネ機器への転換のほか、リサイクル、代替品、雪を利用した冷房・保存、水を利用した省電力水車など多面的視点で施策を列挙し、数値で捉えていければ分かりやすいと考える。</p>

### 第3節 健康・福祉

#### すべての市民が自立できる環境の構築

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

総合評価	現状維持
<p><b>評価の理由</b></p> <p>・</p> <p><b>意見等</b></p>	<p>○障害者や高齢者が希望をもって安心して生活していけるよう、支援していくことが大切なことから、引き続き、各種制度の周知や相談支援体制の充実が必要と考える。</p> <p>○障害のあるすべての人が真つ当な社会生活を送れる社会を目指すためには現状に満足することなく、新たな方法による取組が必要と感じる。</p> <p>○日本が諸外国と決定的に違うのは、欧米の都市では車椅子や障害者が普通に街中で見られることだ。魚沼市内で障害者や車椅子の人が街中を歩く姿はほとんど見られない。障害のある人を特定の施設に入れて管理するやり方では、ノーマライゼーションからは程遠い。</p> <p>○就労支援報酬の低さも問題である。社会全体で彼ら彼女らを受け入れる体制づくりに更なる努力が必要と考える。</p> <p>○高齢者と障害者、社会的弱者が住みよい街づくりを目指すことが魚沼市の特徴にもつながると思う。ぜひ拡充していただきたい。</p> <p>○支援は必要と考えるが、内容について何が重要なのか検討しづらい。</p> <p>○障害者の障害程度、適正に応じた職場の提供が難しいところだと思うが、労働単価、支援する法律の改善も含めた見直しが必要と考える。</p> <p>○一人ひとりに合った適切な福祉サービスの提供については、種々の制約があり、実際サービスは受けにくいことから、施策に対する評価は「やや低い」が妥当ではないかと思う。</p> <p>○今後、障害者基幹相談支援センターを設置するとのことであったが、市民に設置を可能な限り周知し、地域生活支援拠点事業を推進していただきたい。また、就労継続支援事業所における平均月額工賃（B型）も現在の物価高騰を踏まえ、可能であれば拡充を検討願う。</p> <p>○医療費助成は治療の継続と生活の維持のために必要な事業だと感じる。</p>

## 医療資源の育成

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

<p><b>総合評価</b></p>	<p>現状維持</p>
<p><b>評価の理由</b> ・ <b>意見等</b></p>	<p>○高齢化が進む中で、医療や介護事業への需要が益々高まるものと思料される。また、人手不足が長期化すると、業務負担の増加を理由とした離職が起こり、更なる人手不足へとつながりかねないため、人材確保などの医療資源を充実させるための取組をこの先も継続してもらいたいと思う。</p> <p>○予算等の問題があるため、現状での取組でよいと思う。</p> <p>○仕事がきつい、責任が重くなるなどの理由で離職する人がいる。定着支援も考える必要がある。</p> <p>○医療と介護の連携は必要と思うが、医療・介護、産業の全ての分野において人手不足である。</p> <p>○外国人技能実習生の採用、ロボットの対応・置き換えが必要と考える。</p> <p>○指標である総合計画市民アンケートは2年に1回程度行うほうがよいと考える。</p>

## 第4節 産業

### 新たな特産品づくり、ブランド化の推進

一次評価：拡充／二次評価：拡充

総合評価	拡充
<p><b>評価の理由</b></p> <p>・</p> <p><b>意見等</b></p>	<p>○令和4年度は各イベントが復活し多くの市民がそこで食や健康に対する市の取組に興味を持っていただくことができたとのことだが、コロナ禍で停滞した部分が、通常に戻っただけという見方もできる。これからますますこのような事業を啓発していくことが重要なので「拡充」が妥当と考える。</p> <p>○品質向上が課題だと感じる。全国への発信も大切だと思うが、地元の人たちが、魚沼市のブランド品を知る機会も大切にしたい。</p> <p>○農産物や加工品などのブランド化の推進は、消費拡大や事業者の所得向上のほか、魚沼市の認知度向上や価値創造に資する重要な取組だと考える。特に、魚沼市プレミアム認定は訴求力のある取組だと思うので、認定を目指す商品の発掘や磨き上げ、認定された商品のPRに加え、こういったコンセプトで認定しているのかなど制度の周知も含めて、更なる取組を期待する。</p> <p>○いつまでも魚沼コシヒカリブランドだけに依存しては将来が開けないという危機感で取り組んだはずの魚沼ブランド推奨品は目的を達成できていない。評価指標にその数を掲げているのはミスマッチだ。その反省から新たにプレミアム認定制度を立ち上げたが、新たなブランドに取り組むなら、農政課だけでなく、企画や産業・観光など庁内を挙げた取組が必要だ。まずは市民に認知してもらうことからしか始まらない、市民が認知してない地域ブランドなど対外的にアピールしても結果は得られない。</p> <p>○指標である「ふるさと納税額」は目標を達成しているものの、寄付金そのものは横ばい。返礼品も米が主流であるが、他に何かサブ的な商品がほしいと感じる。</p> <p>○ブランド推奨品の販売の現状が気になる。</p> <p>○農畜産物の適正価格についても消費者の理解を醸成願いたい。</p> <p>○稲作中心の農業であると思うが、畑作の方へも目を向けていく必要がある。冬期間の雪を乗り越えた目をつける方向を少し変え、味の良い作物を作れるようにできないものだろうか。</p> <p>○魚沼ブランドのPR等はまだまだ改善の余地があると思う。</p> <p>○今後、魚沼市の特産品をブランド化していくためには、行政だけでなく市民、事業者、関係団体が一体となって、ブランド制度や、コンセプト、PR方法を検討し、ブラッシュアップしていくことが大切であると感じた。</p>

戦略的な人材確保・企業誘致の推進

一次評価：現状維持／二次評価：拡充

<p><b>総合評価</b></p>	<p>拡充</p>
<p><b>評価の理由</b> ・ <b>意見等</b></p>	<p>○人口減少が続く本市において魅力ある企業を誘致し、雇用を拡大することは喫緊の課題である。</p> <p>○インターンシップ支援を拡充いただきたい。</p> <p>○就業者が増加した結果のみを捉えるのではなく、その要因を深掘りし、次の施策を打ち出していきたい。</p> <p>○指標である「水の郷工業団地及び旧湯之谷庁舎立地企業の就業者数」については増加しているが、市外からの移住がなければ市としてのメリットは薄いと考える。地域内の人員の移動では人口増にはつながらない。ほかからの移動を重要視すべきである。</p> <p>○某企業は敷地に観光施設の新設や生産能力拡大計画があると聞く。ぜひ行政や金融機関も連携しながら、観光的要素も折り込み、集客とともに雇用拡大につなげるようなサポートをすべきではないかと考える。</p> <p>○「戦略的な人材確保」とするならば、絶対的に人手が不足している現状では外国人技能実習生の受け入れ支援が必要と考える。介護や農業だけでなく、職種の垣根を超えて展開していくべきである。</p> <p>○外国人も含め、U I ターン者・移住定住者の人材確保を強く望む。</p> <p>○水の郷工業団地など大きな企業への就職希望も少ない。就業選択が多様化している。それに合うような企業の誘致が必要である。</p> <p>○企業の立地によって雇用の場が創出され、地域の活性化にも期待できるが、人口が減少している中で、労働力をどのように確保していくかが課題となる。</p> <p>○某企業は予想以上の応募者数があり、予定以上の採用を実施したとの声を聞き、当地Uターン希望者においては、水の郷工業団地は有力な受け皿となっていると実感した。</p>

## 第5節 教育・文化

### 自然や文化を活用し生きる力を育む教育の推進

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

総合評価	現状維持
<p><b>評価の理由</b></p> <p>・</p> <p><b>意見等</b></p>	<p>○自然があふれる魚沼市ならではの体験学習などの取組は、引き続き充実した内容で継続してほしいと考える。</p> <p>○将来の地域を支える人材の育成に向けてより優先度を上げて取り組んでもらいたい。</p> <p>○コロナ関係によるひきこもり等は緩やかに改善していくものと思うが、油断は禁物である。対策は強化していくべきである。現状維持としたが、拡充することも考えていただきたい。</p> <p>○尾瀬の自然学習は継続されて成果があるが、サケの採捕場についても身近で魚沼の豊かな自然を体験できる。孵化場から小学校で飼育された5cmのサケの稚魚が魚野川に放流され、4年後、北太平洋を回遊し体長80cmに成長したサケは、山から染み出たミネラルなどの成分で生まれ故郷の川の匂いをかぎ分け、日本海から100km遡って10月に帰って来る。これを学級単位(30~40人)で見学することで、魚沼の豊かな自然を体験できるのではないか。</p> <p>○「魚沼スカイラン」への協力を提案したい。魚沼の山を知り、自然に戯れ、一流選手の走りを見れる。市外の方々から魚沼を知ってもらえる良い機会であり、宿泊も期待できる。観光協会とも連携し「国際雪合戦」に勝るとも劣らない一大イベントにつくり上げてもらいたい。</p> <p>○不登校児童や生徒に係る対策として、発生後の支援や関係機関と連携した対応を充実させた内容で行い、学校復帰に向けて今後も取り組んでほしいと考える。また、いじめ問題に関する基本的な認識を持ってもらうため、児童・生徒に対する指導及び保護者向けの講習会などを開催するなど、『いじめ予防』に向けた取組を充実させてほしい。</p> <p>○教育関係者との接点が少なく、客観的な評価をする材料が乏しかったが、本審議会を経て、市の取組に対する理解が深まった。</p>



## 誰でも楽しく健康づくりができる活動の推進

一次評価：現状維持／二次評価：現状維持

総合評価	現状維持
<p>評価の理由 ・ 意見等</p>	<p>○各種スポーツ教室やスポーツフェスティバルの参加者数が増えていることは良いことだと思うが、実施者の固定化や高齢化への課題解決に向けて、今後、誰でも楽しく健康づくりができるよう、運動習慣の少ない市民が関心を抱く企画や広報等を進めていただきたいと思う。</p> <p>○スポーツ教室に参加できない方もいるので、自分で時間やプログラムが選べる取組があると健康づくりに関心を持ち、参加しやすいと感じた。</p> <p>○子ども対象に、自然をいかし、遊びを通じた体力づくりの教室があるとよいと思う。</p> <p>○魚沼元気ポイント制度はカウント方法を見直し、景品の見直し等も検討が必要であると感じた。また、健康診断の結果と連動した各種スポーツの推奨なども、市民に興味を持ってもらうためには、良い方法であると思う。さらに、スポーツだけでなく食との連動、食生活の指導等にも注力すれば、健康維持と病気を未然に防げるのではないかと感じた。</p> <p>○魚沼元気ポイント事業は曲がり角にきている。重要なのは運動初心者の参加である。市民の健康意識は近年高まってきているが、一人で取り組んでいる場合も多く、なかなか実態をつかめていない。その調査にもなるような、もっと有効な施策にならないかと期待している。運動に取り組むとインセンティブが得られて、行動変容につながるような仕組みが必要で、そこに至ってはいない印象である。</p> <p>○働き盛り世代や、子どもたちの健康的な運動習慣定着がこれからますます重要となってくるので、市民スポーツ普及事業はしっかり取り組むべき事業である。いかに市民の健康づくりに「運動習慣」が重要か、コロナ禍で市民が再認識したところである。</p> <p>○施設の老朽化に伴う解体が進んでいるが、高齢化に伴うリハビリ・ケア施設が必要であると思う。特にプールが無くなってきているが、これからは必要な存在となるものと思う。</p> <p>○現行の施策が浸透しないなら、どうしたら取り組んでもらえるか、他地域の例など参考にしながら新たな取組も考えて行かなければならない。</p> <p>○総合計画は10年間の期間設定だが、前後期とアクションプランも併せて作ることで、より効果的な施策を実践していかなければ、計画倒れとなる危険もはらんでいる。</p> <p>○指導員の数は十分なのか。</p>

## 第6節 市民協働・自治体運営

### わかりやすい行政情報の発信と職員的能力向上

一次評価：現状維持／二次評価：改善・見直し

<b>総合評価</b>	改善・見直し
<b>評価の理由 ・ 意見等</b>	<p>○市民が求める情報を収集し、その要望に応える形での出前講座を実施していただきたい。</p> <p>○出前講座への参加人数が大変少ない。若年層の参加はほぼない。おそらく興味がない、メニューは多いが一方向的な方向ではないかと思われる。今後実施するようであれば委員も参加を試みる必要があるとあり、住民に参加を促す方法を検討していただきたい。また、住民の要求を精査することも必要であると思われるし、幅広い意見の集約も必要である。</p> <p>○出前講座の周知の仕方、タイミング（他の行事やイベントと合わせて実施など）を工夫してはどうか。</p> <p>○市民に信頼される行政であるために、倫理研修や人権研修等を通じ、職員一人ひとりがその内容を正しく理解し、行政サービスの向上のため、この取組を継続していただきたい。</p>

## 行政改革の継続とデジタル化の推進

一次評価：拡充／二次評価：拡充

総合評価	拡充
<p><b>評価の理由</b></p> <p>・</p> <p><b>意見等</b></p>	<p>○行政改革の継続に関しては、公共施設の数が多く再編整備に少し時間がかかっているとのことで、今後スピードアップして再編整備を行い維持管理費の削減につなげてもらいたい。また、デジタル化に関しては、高齢者であっても、教育や周知をうまく行えば対応できるという意見が多かった。今後も行政手続きの合理化、効率化とデジタル化を組み合わせるべきと考え拡充と判断した。デジタル化を推進するうえで、切り捨てられたり、置いていかれたりする人が無いように推進していただきたい。</p> <p>○人口減少局面において、財政負担の軽減や効率的な行政事務の推進は必要不可欠なことから、一層の取組推進が必要である。</p> <p>○公共施設再編整備計画の最終年方針を出していた施設のうち、7施設で方針を達成したとあるので実績は出たのではないか。公共施設の管理などは今後ますます変えていくべきところなので拡充が妥当ではないか。</p> <p>○小出郷福祉センターが閉館し、新しく生涯学習センターが新設されるが、全ての機能が移管されるか不安だ。小さなサークル活動は全てなくなるのではないか。今の代替している小出北部公民館ではカバーしきれていないのが現状である。</p> <p>○施設の再編では、高齢者が多い魚沼地域で、市民に寄り添った施設の在り方が問われている。</p> <p>○施設の再編については機会を見ながら速やかに実行すべき。</p> <p>○合併前に整備された公共施設は、スキー場や入浴施設など民間では採算の取れないものが多く、市政の重荷になっている。多くの施設が指定管理へと移行したが、直営時代の維持経費を負担するだけなら指定管理の効果は出ない。個別施設のコストに合わないサービスの見直しや施設の統廃合を進め、稼ぎ出せる仕組みを再構築していくべきである。</p> <p>○デジタル化は推進すべきである。利用者からの要望も含め、活用しやすく精度の高いものを望む。一方で、情報を利用したくとも容易にできな人がいるのも事実である。教室的な開催も必要。参加しやすい手段を望む。</p>

## II 評価結果総括

### 1 評価結果の概要

#### (1) 施策に対する総合評価結果

評価区分	一次評価（担当部署）		二次評価（行政評価会議）	
	施策数	割合（%）	施策数	割合（%）
現状維持	54	87.0%	47	75.8%
拡 充	4	6.5%	8	12.9%
改善・見直し	4	6.5%	7	11.3%
（ 合 計 ）	62	100.0%	62	100.0%

施策に対する総合評価結果について、一次評価では「現状維持」が全体の87%を占め、「拡充」及び「改善・見直し」は各4施策ずつという結果に対し、二次評価では「現状維持」の割合が約75%となり、「拡充」が4施策、「改善・見直し」が3施策増加する結果となりました。

#### (2) 二次評価による総合評価の変更

評価変更の内容	施 策 名	担当課	関係課
現状維持 → 改善・見直し	森林資源の利活用の推進	農林整備課	—
現状維持 → 拡充	子育て支援	子ども課	企画政策課 地域創生課
現状維持 → 拡充	暮らしの支援体制の推進	介護福祉課	—
現状維持 → 改善・見直し	競争力強化に向けた商工業者への支援	商工課	—
現状維持 → 拡充	定住人口確保のための取組の強化	商工課	—
現状維持 → 拡充	戦略的な人財確保・企業誘致の推進	商工課	—
現状維持 → 改善・見直し	わかりやすい行政情報の発信と職員的能力向上	秘書広報課	総務人事課 市民課

行政評価会議による二次評価では、より行政の透明性を高め、効率的で効果的な施策の推進や改善を促すことを意識して評価を行った結果、3つの施策が「現状維持」から「改善・見直し」へ、4つの施策が「現状維持」から「拡充」へと変更になりました。

### (3) 施策に対する評価結果（達成度）

評価区分	一次評価（担当部署）		二次評価（行政評価会議）	
	施策数	割合（%）	施策数	割合（%）
高い	11	17.8%	8	12.9%
やや高い	33	53.2%	34	54.8%
やや低い	18	29.0%	19	30.7%
低い	0	0.0%	1	1.6%
（合計）	62	100.0%	62	100.0%

施策成果の達成度について、一次評価及び二次評価ともに「高い」「やや高い」が全体の約7割を占める結果となりました。

令和4年度も依然として新型コロナウイルス感染症の影響により、達成度が低くなる傾向は見られたものの、おおむね順調に進捗していると考えます。

### (4) 施策に対する評価結果（貢献度）

評価区分	一次評価（担当部署）		二次評価（行政評価会議）	
	施策数	割合（%）	施策数	割合（%）
高い	14	22.6%	14	22.6%
やや高い	46	74.2%	45	72.6%
やや低い	2	3.2%	3	4.8%
低い	0	0.0%	0	0.0%
（合計）	62	100.0%	62	100.0%

貢献度について、一次評価及び二次評価ともに「高い」「やや高い」が全体の9割以上を占める結果となりました。また、「やや高い」だけでも全体の約7割以上を占めています。

### (5) 課題・今後の方向性

各施策の一次評価、二次評価において、令和6年度実施の施策に向けた検討や改善等の考え方が示されており、現在実施している施策の経過と合わせ、令和6年度の実施計画策定の際に、反映させることとします。

## 2 行政評価における今後の取組

行政評価制度は、行政運営・行政経営の仕組みの一つとして重要な役割を担っています。  
今後は、効率的・効果的な施策の推進と改善を図っていくとともに、評価結果を公表し、情報を公開することとします。

### (1) 令和5年度実施施策の事後評価に向けて

#### ① 改善の取組

今回の評価結果を担当部署に報告し、施策及び施策を構成する事務事業の改善に取り組みます。

#### ② 評価結果の公表

評価結果については、市議会へ報告し、市のホームページ等により公表します。

### (2) 令和6年度の実施計画に向けて

#### 施策を構成する事業の追加と削除の検討

今後も効率的、効果的な施策の推進を図るため、今後実施する実施計画のローリング作業において、事務事業の追加や関係性の薄い事業の削除を検討します。

## 3 評価結果の活用方法

行政評価の結果は、事業担当課において事業実施手法の見直しや改善、目標管理のツールとして活用するとともに、総合計画実施計画の中の進行管理把握のための資料や予算編成資料として活用します。

また、行政評価結果を報告書として取りまとめ、市議会への情報提供、市のホームページへの掲載を行います。

---

## 魚沼市行政評価

### 施策評価 実施結果報告書

(令和4年度実施事業)

---

発行／魚沼市

〒946-8601 新潟県魚沼市小出島 910 番地  
TEL 025-792-1000(大代表) FAX 025-792-9500

編集／魚沼市行政評価会議

事務局／総務政策部 企画政策課 企画調整係

[URL] <https://www.city.uonuma.lg.jp/>

[e-mail] [kikaku@city.uonuma.lg.jp](mailto:kikaku@city.uonuma.lg.jp)

---



*Uonuma City*  
*Niigata*



---

# 令和4年度実施 施策評価結果シート

---

－ 別冊 －

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
連  
結

9 産業と投資活動の振興をつくろう

11 住み続けられるまちづくりを

### 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	産業経済部 建設課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	星 和久
主要施策	1項 安心で便利な生活基盤の整備	関係 課	都市整備課	
施策名	1号 道路網の整備			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

地域発展や産業の振興を図るため、道路利用者の安全・安心を確保し、かつ利便性の高い道路交通ネットワークの強化に努めるとともに、災害時の孤立や交通の途絶を解消するため、雪や災害に強い道路交通ネットワークの形成を効果的にすすめます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
314		市道整備事業		216,231	193,247	543,200				やや高い	B
		8 2 2	建設課								
		事業の取組内容		幹線道路の整備及び利便性の高い交通ネットワーク強化、道路機能の向上促進等を行う。							
329		都市計画策定事業		0	5,687	15,682				やや高い	B
		8 4 1	都市整備課								
		事業の取組内容		都市計画マスタープランの更新に向け基礎調査等を行う。							
331		都市再生整備計画事業		2,665	15	4,020				やや高い	A
		8 4 1	都市整備課								
		事業の取組内容		立地適正化計画に掲げるコンパクトなまちづくりの推進を目指し、都市機能誘導区域に定めた小出市街地等のまちづくりの検討を行う。							
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	道路の整備延長 県・市管理道路のR3~R7の累計	4,017 (H28~R1累 計)	目標値	1,500	3,000	4,500	6,000	7,500	7,500	m
			実績値	2,607	4,244					
			達成率	173.8%	141.4%	%	%	%		
2	道路整備に対する満足度 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	59.6 (R1調査)	目標値	—	—	—	65	—	65	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

市道整備事業の実施により、徳田3号線、大石30号線など地域住民の暮らしの基礎である生活道路を整備することで、冬期間の機械除雪が円滑に行われ、また緊急車両の円滑な移動が確保されるなど、安全で快適な暮らしに貢献できました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	都市機能の充実と中山間地の生活基盤整備を並行し、コンパクトなまちづくりにも配慮しながら道路整備を進めていく必要があります。			
今後の方向性	地域からの要望内容の把握と、他の機関や部署の事業を十分確保しながら、継続的に市道改良路線を評価・選定し、雪や災害に強い道路交通網整備を進めます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>産業と技術革新の基盤をつくろう</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>住み続けられるまちづくりを</p> </div> </div>
-----------------------	--

### 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	産業経済部 建設課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	星 和久
主要施策	1項 安心で便利な生活基盤の整備	関係 課		
施策名	2号 道路機能の維持向上			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

地域の实情に即した道路の機能向上、高齢者や障害のある人が安全に移動できる生活道路を整備するため、ユニバーサルデザイン化を促進します。  
 施設の状況や維持管理コストを踏まえたうえで、長寿命化を図りながら効率的な維持管理・更新をすすめます。  
 また、冬期間の安全・安心な道路交通を確保するため、効率的な除雪体制の確立及び消融雪施設の整備や除雪計画に基づいた円滑な道路除雪に努めます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
315	○	消融雪施設整備事業		161,001	204,284	246,800				高い	A
		8   2   2	建設課								
		事業の取組内容		消融雪施設の新設・更新を行う。							
316	○	橋梁長寿命化事業		109,105	62,445	102,908				高い	A
		8   2   2	建設課								
		事業の取組内容		計画的に橋梁の点検を行い、適切な時期に補修工事を実施する。							
318	○	道路機械除雪事業		1,706,336	1,641,666	1,257,979				高い	A
		8   2   3	建設課								
		事業の取組内容		主要市道について機械除雪を行って冬期道路交通の確保を図る。							
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位
1	歩道整備延長 県・市管理の整備延長	目標値	600	1,200	1,800	2,400	3,000	3,000	m
		実績値	288	680					
		達成率	48.0%	56.6%	%	%	%		
2	バリアフリー化に対する満足度 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	目標値	—	—	—	50	—	50	%
		実績値	—	—	—	—	—		
		達成率	%	%	%	%	%		
3		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		
4		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

老朽化等より市道消融雪機能が不全となったものから散送水管の更新（延長3.3km）、消雪用井戸（1か所）の整備工事を行い、消融雪機能を回復することができました。また、定期点検で判定の悪い老朽化した橋梁を補修（2橋）することで予防保全型管理を行い、架け替え等の高コスト化を回避することができました。これによって、市民が安全に道路を通行できるようになりました。

除雪機械の更新や機械の定期整備を適時に行い、常に安全な作業ができる体制を整えることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	構成各事務事業が全て目標を達成できたため、「高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	昨冬は12月及び1月に大雪になりましたが、道路機械除雪や消融雪施設の維持や整備により、市民の日常生活に支障ないレベルで交通を確保できたことから貢献度は「高い」と評価しました
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	気候変動により異常豪雪が続くなか、冬期間の交通確保が重要な課題となっていますが、機械除雪のオペレーターが高齢化しており、担い手の確保が急務となっています。また、消雪施設更新を計画的に進めていく必要があります。			
今後の方向性	道路機能の維持・向上は安全で安心できる市民生活の基盤であり、今後も計画的に取組を進める必要があります。 歩道については、通学路等を重点的に整備し、歩行者の安全を確保する必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	成果指標が目標値に達していないため「やや高い」と評価した。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)	S D G 連 s	
------	----	----	--------	-----------------------	--

### 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	ガス水道局 施設課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	渡辺 一彦
主要施策	1項 安心で便利な生活基盤の整備	関係 課		
施策名	3号 ライフラインの維持向上			

### 2. 施策目的（目指すすがた）

ガス・上下水道は、人口減少に伴う料金収入の減少、施設の老朽化に伴う更新投資の増大などにより、経営環境が厳しくなることを踏まえ、施設の統廃合による効率化を図り、将来を見据えた持続可能な事業運営に努めます。

また、快適な生活環境を維持するために、自然災害に対して強い管路等の耐震化をすすめ、安全・安心な供給体制の維持向上を図ります。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
水道 2		水道管耐震化対策事業		200,851	163,517	305,200				高い	A
		1   1   3	施設課								
		事業の取組内容		水道の安定供給を図るため、水道管の耐震化をすすめる。							
下水 4		穴沢・横根地区農業集落排水施設統合事業		25,158	76,386	240,000				やや高い	B
		1   1   2.4	施設課								
		事業の取組内容		快適生活環境の継続と農村環境の保全及び経費節減を図るため、処理施設の統合、処理場の設備更新を実施します。							
下水 5		下水道処理区域流域下水道統合事業		0	15,400	272,003				やや高い	C
		1   1   2	施設課								
		事業の取組内容		持続可能な下水道事業を目指し、単独特環公共下水道及び農業集落排水施設を魚野川流域下水道（堀之内処理区）へ接続します。							
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位	
1	下水道施設の統合 現状18か所の施設を統合し17か所にする	18	目標値	18	18	18	17	17	17	か所
			実績値	18	18					
			達成率	100.0%	100.0%	%	%	%		
2	水道管の耐震化率	13.2 (R1末)	目標値	14.2	14.6	15.1	15.5	16.0	16.0	%
			実績値	14.3	14.6					
			達成率	100.7%	100.0%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

耐震性に優れた配水用ポリエチレン管等の布設工事を実施（1,797m）することにより水道水の安定供給を図ることができ、市民の快適な生活環境の維持につながりました。

下水道施設の統合については、事業の完了後に効果が現れる事業ですが、実施設計・工事を実施し、事業を着実に進捗させたことで、維持管理費の削減と市民の負担軽減に向け前進しました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	水道管の耐震化率は、成果指標を上回ることができました。下水道施設の統合は、繰越もありましたが、事業は着実に進捗しているため「やや高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	水道管耐震化対策事業は、水道管の耐震化率を向上させたことにより供給体制が維持向上しました。下水道統合事業は、効率的・持続可能な下水道の事業運営に貢献する事業であるため「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	水道管の耐震化を進めて、漏水による急な断水等で市民に不便をかけることがないようにしていくことが課題です。また、下水道の統廃合を進めることで維持管理経費を削減し、市民の負担を軽減させていくことが課題です。			
今後の方向性	安心・安全な供給体制の維持向上を図るため、今後も水道管の布設替えを行い、耐震化をすすめます。また、将来を見据えた持続可能な事業運営を行うため、今後も施設の統廃合に向けた事業を実施し、下水道事業の効率化を図ります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 関 連 S	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	5 ジェンダー平等を推進しよう	9 産業と資源循環の持続可能な成長を	10 人や国の不平等をなくそう	11 住み続けられるまちづくりを	17 パートナーシップで課題を解決しよう

## 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 生活環境課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	小林 淳
主要施策	2項 快適な暮らしを支える生活基盤の整備	関係 課	地域創生課	北部事務所
施策名	1号 公共交通の持続可能な地域交通網の推進			

## 2. 施策目的 (目指すすがた)

コンパクトなまちづくりを推進する魚沼市立地適正化計画と整合を図りつつ、基幹的な公共交通軸である乗合バスと、拠点と周辺生活圏を連絡する乗合タクシー及びコミュニティバスの運行支援等によって地域交通網を維持し、高齢者をはじめとした日常生活に必要な移動手段の確保を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
39	○	公共交通総合連携事業		114,124	115,054	119,878				高い	A
		2   1   6	生活環境課								
		事業の取組内容		路線バス及び乗合タクシー運行事業者へ補助金を交付する。							
65	○	地域との「絆」推進事業 (入広瀬地域コミバス分)		4,566	4,737	5,603				高い	B
		2   1   9	地域創生課 北部事務所								
		事業の取組内容		集落支援員を設置し地域の維持活性化対策の促進を図るとともに、地域が取り組む互助事業等への支援を行う。							
67		交通安全対策事業		15,349	18,142	23,458				やや高い	B
		2   1   10	生活環境課								
		事業の取組内容		交通事故防止啓発・広報活動等の交通安全教育、交通安全施設の維持管理、防犯灯設置や修繕の支援を実施する。							
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況 (※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	住民1人あたりの 乗合タクシー等利用回数 乗合タクシー等利用者数 /住民基本台帳人口	0.81 (R1実績)	目標値	0.85	0.88	0.91	0.94	0.97	0.97	回/ 年
			実績値	0.79	0.78					
			達成率	92.9%	88.6%	%	%	%		
2	(上記1参考) 乗合タクシー利用者数		目標値	—	—	—	—	—	—	人
			実績値	26,949	26,093					
			達成率	%	%	%	%	%		
3	(上記1参考) 住民基本台帳人口		目標値	—	—	—	—	—	—	人
			実績値	34,125	33,438					
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		



## 5. その他特記事項

運転免許証自主返納者に対し乗合タクシー等共通回数券を交付することにより、自動車等の運転に不安を覚える方の自主返納を促進し、特に高齢者等に起因する交通事故の未然防止を図るとともに、公共交通機関の利用を促進しています。<令和4年度交付人数：161人（前年度 206人）>

- 令和5年3月31日 路線バス「小出～貫木線」運行終了
- 令和5年3月31日 小出一小千谷線、小出一六日町線、小出一栃尾又線の休止届提出

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

魚沼市地域公共交通計画に基づき、路線バスや乗合タクシーの運行など公共交通体系の確保・維持を図ることで、市内全域で公共交通空白地が解消されています。これにより、高齢者を中心とした通院や買い物など、交通弱者の移動手段を確保し、地域での生活を支援することができました。

また、魚沼市交通安全協会や小出警察署と連携した交通安全の普及・啓発活動が功を奏し、交通事故件数は前年を下回り、市民の安心な暮らしを下支えすることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	路線バスと乗合タクシーの運行費を助成することにより、自家用車に頼らない交通手段の維持を図ることができました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	公共交通体系の維持を図ることで、市内全域で公共交通空白地が解消され、高齢者等交通弱者の移動手段を確保することで、安心して暮らせるまちづくりに寄与しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	○
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	人口減少や少子高齢化による公共交通機関利用者の減少や交通業界全般の慢性的な人材不足の一方で、高まる移動ニーズの多様化へ対応するため、地域公共交通の全体的な見直しが求められています。			
今後の方向性	地域の実情を映し出す公共交通は、大きな転換期を迎えています。限りある交通資源を、有効かつ効果的に活用していくためにも、関係者の共創により地域交通の維持・活性化に取り組んでいきます。また、路線バスの休止について、市民が安心して利用できるよう対策を行っていきます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	成果指標である「住民1人あたりの乗合タクシー等利用回数」が減少していることから「やや高い」と評価する。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	交通弱者の移動には貢献しているが、利用率は低いため、「やや高い」と評価する。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	○
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 関 連	9 産業と観光振興の 振興をつくり出す	10 人や国の不平等 をなくそう	11 住み続けられる まちづくりを
			

## 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	総務政策部 企画政策課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	五十嵐 央
主要施策	2項 快適な暮らしを支える生活基盤の整備	関係 課		
施策名	2号 情報通信基盤の整備と活用			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

情報通信基盤においては、市内どこでも情報が早くと確に伝わることをめざすとともに、地域に密着した情報を発信できる環境整備及び公共施設や商業施設、観光施設等への公衆無線LANの設置をすすめ、また、情報通信技術を積極的に活用することで関係人口を増やし、利便性の高い地域の実現を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
57		ICT推進事業		423	200	2,536				やや低い	C
		2 1 7	企画政策課								
		事業の取組内容		市民や来訪者の利便性を向上させるため、観光施設等の無線LAN環境整備の支援を行う。							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位
1	コミュニティFM放送聴取可能世帯の割合	98 (R1実績)	目標値 100 実績値 98 達成率 81.4%	100 100 100.0%	100 %	100 %	100 %	100	%
2	メール配信登録者数	7,297 (H28~R1 累計)	目標値 9,000 実績値 9,480 達成率 105.3%	10,500 9,505 90.5%	12,000 %	13,500 %	15,000 %	15,000 (H28~R7 累計)	人
3	公衆無線LAN設置支援件数	—	目標値 3 実績値 2 達成率 66.7%	6 3 50.0%	9 %	12 %	15 %	15 (R3~R7 累計)	件
4			目標値 実績値 達成率	% % %	% % %	% % %	% % %		

## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

公衆無線LAN設置支援事業では、補助金を交付し整備を行ったことで、利用可能エリアが広がり、市民や観光客の利便性が向上しました。  
 マイナポータルを通じたオンラインによる転出届の受付及び来庁予定の連絡（転入予約）をはじめ、職員採用試験申込をオンラインでできるようにしたことで、市民の利便性の向上と行政運営の簡素化・効率化が進みました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い 公衆無線LAN設置支援等、実績値は伸びてはいるものの、成果指標の目標達成の項目が3項目中1項目だったためです。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い 公共施設の公衆無線LAN設置は計画どおり進んでいるものの、民間施設においては、支援件数が目標を下回っているためです。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し
課題	公衆無線LAN設置支援の申請数が伸びていないため、利用しやすい制度への見直しが課題です。また、高齢者や障害者などより多くの市民がデジタル化の恩恵を受けることができるような仕組みづくりが課題です。		
今後の方向性	公衆無線LAN整備などのハード事業を推進するとともに、デジタルデバインド対策も進めICTを活用することにより、市民の利便性向上を図ります。		

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い 一次評価のとおり。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い 一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し
課題	一次評価のとおり。		
今後の方向性	行政のデジタル化に関する取組を進めることで、市民の利便性向上を図ること。		

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)	S D G 連 s	     
------	----	----	--------	-----------------------	----------------------

### 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当課	部課名	産業経済部 都市整備課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり	関係課	担当課長名	齊藤 嘉文
主要施策	2項 快適な暮らしを支える生活基盤の整備		地域創生課	
施策名	3号 住環境の整備			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

屋根雪除雪の安全対策や一般住宅の克雪化、耐震化などをすすめるほか、法令に基づき空き家対策として所有者等に解体・撤去を含めた適正な管理を促すとともに、空き家バンクなどを通じて有効活用を図ります。

また、公営住宅については、計画的な改修による長寿命化を図るとともに、民間活力も視野に入れながら利便性の高い市街地周辺に住民ニーズに対応した再編整備をすすめます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
45	○	移住定住促進事業		1,588	6,079	20,857				やや高い	C
		2 1 6	地域創生課								
		事業の取組内容		移住者が新規住宅取得した場合、家賃補助等を行う。							
341		公営住宅等大規模改修事業		10,175	385	79,860				やや高い	B
		8 5 1	都市整備課								
		事業の取組内容		老朽化が進む公営住宅の計画的な大規模改修を実施する。							
342		公営住宅整備事業		6,582	14,383	7,357				やや高い	A
		8 5 1	都市整備課								
		事業の取組内容		建物が老朽化した住宅団地を集約し、住宅の建替えを行う。							
343		克雪すまいづくり支援事業		8,805	3,419	8,620				やや高い	C
		8 5 2	都市整備課								
		事業の取組内容		克雪住宅の整備を行う者に対し、費用の一部を補助する。							
344		住宅耐震化等支援事業		100	0	2,760				やや高い	C
		8 5 2	都市整備課								
		事業の取組内容		木造住宅の耐震診断・改修等を支援し、地震に強いまちづくりを推進する。							
345		屋根雪除雪安全対策事業		2,312	5,484	5,500				やや高い	A
		8 5 2	都市整備課								
		事業の取組内容		屋根の雪下ろし作業用の命綱を固定するための金具の取付等の費用を助成する。							
346	○	住宅リフォーム支援事業		62,958	68,080	70,115				高い	A
		8 5 2	都市整備課								
		事業の取組内容		個人住宅等の質の向上を図り、かつ空き家の有効活用により移住定住を促進する。							

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	克雪住宅支援件数 克雪すまいづくり支援件数+屋根雪除雪安全対策支援件数	—	目標値	40	80	120	160	200	200 (R3~R7 累計)	件
			実績値	58	142					
			達成率	145.0%	177.5%	%	%	%		
2	空き家バンクの 登録件数 令和3年から令和7年の累計	21 (H28~R1 累計)	目標値	24	28	32	36	40	40 (R3~R7 累計)	件
			実績値	25	32					
			達成率	104.1%	114.2%	%	%	%		

### 5. その他特記事項

空き家バンク登録申請数（令和4年度：7件）  
 空き家バンク成約数（令和4年度：4件うち3件が市外からの移住者）  
 特定空家等の除却1件（佐梨地内）

### 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

屋根雪除雪における落下事故対策事業及び住宅リフォーム支援事業ほか住宅施策の実施により、市民の安全確保と住環境の整備に寄与できました。また、空き家バンク制度の運用により空き家の解消を図るとともに移住者を受入れることに寄与できました。  
 老朽化した公営住宅の解体により管理戸数の適正化と維持管理費の削減を図り、さらに入居者の住替えにより市街地への居住誘導を推進することに寄与できました。

### 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	成果指標である克雪住宅支援件数及び空き家バンクの登録件数が目標を上回っており、特に住宅支援事業が空き家の活用につながっていると考えられることから、「やや高い」と評価しました。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	住宅リフォーム支援事業を中心とした個人住宅への支援策は、住環境の質向上、市内業者への経済効果、空き家の活用、市外からの移住促進の全てに対し良い影響を与えていることから、「やや高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	空き家の所有者等に対し管理不全の解消に向けた働きかけの強化や空き家の有効活用策に向けた不動産業者等との連携が必要となっています。				
今後の方向性	都市計画マスタープランに定める都市拠点と地域拠点への居住誘導を図るため拠点に存する空き家の有効活用を進め、公営住宅の集約と民間資本を活用した公営住宅跡地の利用及び長寿命化する公営住宅の計画的な改修を進めていく必要があります。				

### 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。				
今後の方向性	一次評価のとおり。				

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------



## 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当課	部課名	総務政策部 防災安全課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	佐藤 豊
主要施策	3項 暮らしを守る防災体制の整備	関係課	消防本部 総務課	
施策名	1号 自助・共助・公助の仕組みの充実			

## 2. 施策目的（目指すすがた）

家庭・学校・職場などで自らがその生命や財産を守り（自助）、地域や企業が助け合い（共助）、市・消防本部・消防団・警察などによる応急・復旧対策活動（公助）の役割を明確にし、連携の仕組みを充実して災害対応を円滑にします。

なお、消防団は、公助と共助の両方の側面があり、指揮統制で活躍する実働部隊であると同時に、公助と共助や自助との「つなぎ役」、住民に対する「情報伝達者」であることから、役割の明確化を図ります。

加えて、災害発生時に備えて適切な公的備蓄と感染症等を考慮した避難所運営を行うとともに、災害時の食料・物資の供給、避難所利用などに関する協定の締結を行い、緊急時の体制を整備します。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
355	○	消防団管理運営事業		64,924	61,201	82,843				やや高い	B
		9   1   2	消防本部								
		事業の取組内容		報酬、費用弁償、車両・施設等の維持管理費、負担金など							
359	○	防災対策事業		22,286	31,740	23,172				やや高い	A
		9   1   4	防災安全課								
		事業の取組内容		防災対策全般（防災企画、災害対応、自主防災組織、防災訓練等）を実施する							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3					R4					最終 目標値	単位
			実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績			
1	自主防災組織の加入率	94 (R1実績)	目標値	96	97	98	99	100	100	%				
			実績値	96	96									
			達成率	100.0%	98.9%	%	%	%						
2	防災連携協定の締結数	37 (R1末)	目標値	40	42	45	48	50	50	団体				
			実績値	43	43									
			達成率	107.5%	102.3%	%	%	%						
3	消防団協力事業所の数	13 (R1末)	目標値	15	16	16	17	18	18	団体				
			実績値	15	15									
			達成率	100.0%	93.7%	%	%	%						
4	消防団員数 (人口比率2.5%が目標値)	879 (2.48%) (R1末)	目標値	853	840	827	814	800	800 (2.50%以上)	人				
			実績値	829	812									
			達成率	97.1%	96.6%	%	%	%						

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

自主防災組織に対しては、地域防災活動に対する助成や活動支援を行い、防災連携協定団体、消防団協力事業所に対しては、平時から連絡調整等による関係づくりにより、災害時の協力体制の強化につなげることができました。また、消防団についても、装備品の計画的な整備が進められたことにより、団員の災害活動時の安全確保を図るとともに、地域防災力の充実強化につなげることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 自主防災組織の防災意識向上や協定団体等との関係強化、消防団の装備品整備により防災体制の強化につながっているため「やや高い」と評価しました。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 自助・共助の充実を図っていくためには、自主防災組織や消防団の組織力強化や関係機関との連携強化が必要であることから、「やや高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。 新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	現状維持	○
			拡充	
			改善・見直し	
課題	<p>発災時の地域の具体的な行動計画等があまり話し合われていない地域があるため、そうした地域を一つでも少なくしていくこと及びが課題となっています。また、消防団員の減少と、なり手不足が深刻化しており、次の世代の担い手の確保が課題となっています。加えて、それぞれの地域の実情に応じた避難所の配置見直しを行うことも必要です。</p>			
今後の方向性	<p>地域や関係者と今まで以上に「話し合い」の時間を持ちながら、自助、共助の仕組みづくりに向け自主防災組織の体制強化に取り組んでいきます。また、消防団員の確保については、その活動が地域から称賛され頼りにされるような活躍の場を増やし、よりやりがいのある活動に変えることで、次の世代の担い手の確保につなげていきます。</p>			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。 新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	現状維持	○
			拡充	
			改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
S

11  
住み続けられるまちづくりを

17  
パートナーシップで目標を達成しよう

## 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	総務政策部 防災安全課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	佐藤 豊
主要施策	3項 暮らしを守る防災体制の整備	関係 課	地域創生課	
施策名	2号 自助・共助を支える支援体制の強化			

## 2. 施策目的（目指すすがた）

家庭・学校・職場などでの災害への備え、危険箇所、避難場所や経路などの情報を提供するとともに、自らを守る防災意識の向上や防災教育の充実を図ります。  
また、自主防災会や防災士の育成・支援及び連携体制の整備をすすめ、地域防災力の底上げを図るとともに、避難行動要支援者名簿や災害情報の共有を図るなど、地域や職場を守る災害対応を支援します。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
358		防災対策事業		1,720	16,991	15,482				やや高い	B
		9   1   4	地域創生課								
		事業の取組内容		空家の所有者等に対する管理不全の解消に向けた働きかけや空家の有効活用を支援する							
359	○	防災対策事業		22,286	31,740	23,172				やや高い	A
		9   1   4	防災安全課								
		事業の取組内容		防災対策全般（防災企画、災害対応、自主防災組織、防災訓練等）を実施する							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	防災士の 市内登録地区数	80 (R1末)	目標値	88	90	95	100	105	105	地区
			実績値	88	91					
			達成率	100.0%	101.1%	%	%	%		
2			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		



## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

市内防災士の育成により、3名の防災士が新たに誕生し、地域における防災のリーダー役が増えたことで、地域の防災力強化につなげることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	市内での防災士登録数が増えてきていますが、地域での具体的な取組につなげられていないため、防災士を地域でいかす仕組みづくりが課題です。また、自主防災組織の活性化に向けた助成事業等の推進を図りましたが、思うように活用されていないため、その原因の究明と対策が課題です。			
今後の方向性	防災士の育成を継続的に行うとともに、地域での防災士の活躍の場づくりを進めながら、自治防災組織との係わりを強化していきます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
S

11  
住み続けられるまちづくりを

17  
パートナーシップで目標を達成しよう

### 1. 基本情報

施策分野	生活基盤	評価 担当 課	部課名	総務政策部 防災安全課
基本目標	1節 安心な暮らし 愛着のもてるまちづくり		担当課長名	佐藤 豊
主要施策	3項 暮らしを守る防災体制の整備	関係 課	企画政策課	建設課
施策名	3号 防災基盤の強化		消防本部 総務課	

### 2. 施策目的(目指すすがた)

市の防災体制の充実を図るとともに消防団は教育訓練、処遇等の改善を図りながら団員確保に努め、救済活動を効率的で効果的に行うために関係機関との協力関係を強化します。  
また、災害・防災情報の確実な伝達を図るため、防災行政無線等の充実を図るとともに、国県と連携し、自然災害の減災対策のための施設整備を促進します。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
325	○	内水対策事業		307,605	547,399	394,600				高い	B
		8 3 1	建設課								
		事業の取組内容 四日町・袖八川地区の内水対策として、排水機場新設及び排水ポンプ増設を行う。									
356	○	消防団施設整備事業		34,404	29,629	27,063				高い	A
		9 1 2	消防本部								
		事業の取組内容 小型動力ポンプ、積載車、消防器具庫等を整備する。									
362	○	防災行政無線等整備事業		59,087	33,770	72,800				高い	A
		9 1 4	防災安全課								
		事業の取組内容 同報系防災行政無線屋外子局増設工事の実施及び防災情報伝達設備等更新計画の策定を行う。									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	消防団員数 人口比率2.5%が目標値	879 (2.48%) (R1末)	目標値	853	840	827	814	800	800 (2.50%以上)	人
			実績値	829	812					
			達成率	97.1%	96.6%	%	%	%		
2	小型動力消防ポンプ付積載車更新 20年以上経過したものの中から総合的に判断する		目標値	3	3	3	4	1	18	台
			実績値	3	3					
			達成率	100.0%	100.0%	%	%	%		
3	屋外子局等数 難聴取地区の縮減を図る	115	目標値	125	130	135	140	140	140	箇所
			実績値	125	129					
			達成率	100.0%	99.2%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

小型動力ポンプ付積載車等の更新や四日町の排水機場、防災行政無線の整備が計画どおり進んでいることから、市民の安全につながっています。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	消防団の施設及び装備の充実、情報伝達設備の拡充、内水対策整備とも計画どおり進捗し、地域防災基盤の強化につながっていることから「やや高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	市の防災体制の充実を図っていくうえで、消防団の装備等や各種設備等の整備などハード面での対策は優先的に取り組んでいく必要がある事業であり、貢献度は「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	消防団員の減少による地域への資機材の適正配置と、施設と組織のバランスを図った運用が課題です。同報系防災行政無線設備の老朽化による計画的な更新と新たな情報伝達の方法の検討が課題となっています。			
今後の方向性	地域の実情や要望に合わせた消防団の再編成を進めるとともに、防災体制の強化を図るため、引き続き施設、設備等の整備を進めていきます。防災無線の更新工事は令和5年度から毎年10基程度とし、計画的に音達エリアの拡大を進めていきます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	2 気候をゼロに	6 安全な水とトイレを世界中に	13 気候変動に具体的な対策を	15 海の豊かさを守ろう	17 パートナーシップで目標を達成しよう
-----------------------	-------------	--------------------	--------------------	-----------------	-------------------------

### 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 生活環境課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	小林 淳
主要施策	1項 豊かな自然の保全と育成	関係 課	農政課	
施策名	1号 豊かな自然と美しい景観の保全			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

やすらぎと潤いを与えてくれる貴重な自然環境を次代へつなぐため、環境意識の啓発を図り、市民一人ひとりの環境保全に対する意識を高めるとともに、市民や関係団体と協働して、貴重・希少な動植物の保護に努めます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
215	○	自然環境保全事業		4,331	4,676	6,460				高い	B
		4   1   4	生活環境課								
		事業の取組内容		市内の自然環境調査を実施する。							
253		環境保全型農業直接支払交付金事業		2,415	3,010	3,378				やや高い	A
		6   1   3	農政課								
		事業の取組内容		環境保全に資する農業の取組を行う者に対し交付金を支出する。							
285		溪流魚放流・保護事業		900	900	900				やや高い	A
		6   3   1	農政課								
		事業の取組内容		銀山水系・佐梨川水系への溪流魚(イワナ稚魚)の放流を行う。							
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値		R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
				実績	実績	実績	実績	実績		
1	自然環境保全地域の 指定数	3 (R1末)	目標値	5	5	5	5	5	5	箇所
			実績値	6	7					
			達成率	120.0%	140.0%	%	%	%		
2	豊かな自然の保全と 育成の満足度 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	39.3 (R1調査)	目標値	—	—	—	50	—	50	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

自然環境保全条例に基づき、マダラナニワトンボ生息地を保全地区に指定し、貴重な自然環境の保全に資することができました。

調査結果を市民に還元するため生物多様性セミナーを開催し、78人の参加がありました。県の環境賞を受賞した大茅川区と広神西小学校及びNPO法人スノーパーク小出より発表を行っていただき、環境保全や生物多様性の啓発に資することができました。

また、大茅川区と広神西小学校が行っているオキナグサの保全活動が、国の地域環境保全功労者表彰を受賞するなど、対外的な成果も表れています。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	生物多様性調査の実施、標本教室等の開催により、広く市民から魚沼の自然環境保全の必要性を認識していただき、環境意識の啓発を図ることができました。また、マダラナニワトンボ生息地を保全地区に指定し、貴重な自然環境の保全に資することができました。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	市民参加活動による、生物多様性調査、標本教室や標本展など、これまでの啓発活動や環境学習による意識啓発が図られており、着実に成果の積み重ねができていていると考えます。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	継続調査の必要性とともに、携わる方の高齢化等により人材の育成と発掘が課題となっています。 保全地域・保護動植物を指定した地区の保全維持管理をどのように図っていくか、継続的な保全体制づくりが課題です。			
今後の方向性	引き続き、市、地元NPO法人、市民ボランティアと協働で自然環境保全調査等を進めていくとともに、次世代の人材や団体を育成していく必要があります。また、調査成果を効果的に活用し、環境保全啓発や環境教育の取組へつなげていくこととします。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	4	6	13	15

## 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	産業経済部 農林整備課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	佐藤 善行
主要施策	1項 豊かな自然の保全と育成	関係 課		
施策名	2号 森林と里山の再生			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

森林や里山の持つさまざまな機能を活かすための啓発活動、森林体験学習などの推進を図り、市民1人ひとりの森林保全に対する意識を高めます。  
また、森林が循環する「植える・育てる・活用する」の推進を図り、森林の有する多面的機能を保持する健全な森林づくりをすすめます。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
268		林業振興事業		545	551	2,909				やや高い	C
		6   2   2	農林整備課								
		事業の取組内容		林業及び環境保全のPR等を行い、森林・里山に対する意識を高める。							
270	○	森林整備事業		17,828	9,845	47,315				やや高い	B
		6   2   2	農林整備課								
		事業の取組内容		市行造林事業、森林整備推進事業等の実施により、森林・里山の健全化及び林業の活性化を図る。							
271	○	里山整備事業		22,081	21,579	0				やや高い	A
		6   2   2	農林整備課								
		事業の取組内容		里山の整備及び木材搬出に係る補助を行う。							
274	○	森林体験・環境学習事業		321	675	0				やや高い	C
		6   2   2	農林整備課								
		事業の取組内容		森林を活用した体験メニューやインストラクターの充実を図る。							

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位
1	森林整備面積	目標値	800	840	880	920	960	960 (H16~R7 累計)	ha
		実績値	789	810					
		達成率	98.6%	96.4%	%	%	%		
2		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		
3		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		
4		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

令和5年度から里山整備事業は森林整備事業に、森林体験・環境学習事業は林業振興事業に統合しました。

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

うおぬま森の学校事業では、森林・林業に関する体験やセミナー等を17回開催し、幅広い世代の市民に向けて、森林保全に対する意識向上を図ることができました。里山整備事業では、新たな団体が事業に取り組むなど、市民の森林保全意識の高まりが着実に進んでいます。また、市有林は間伐等を実施し、私有林は事業体等と連携した間伐等を進めることができ、水源かん養や土砂災害防止など多面的な機能を保持する健全な森林づくりを進めました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	成果指標の達成状況はやや下回るものの、森林整備面積は目標に向かって進展していることから「やや高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	市民の森林保全への関心が徐々に現れ、里山の整備促進につながり、健全な森林づくりに貢献していることから「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	健全な森林づくりを継続して進めていくため、森林環境譲与税を活用した私有林の未整備人工林整備を促進していくことが課題です。			
今後の方向性	森林環境譲与税を有効に活用して計画的かつ効率的に森林整備を進めるとともに、森林インストラクター養成を通じて森林体験や環境学習の充実を図り、市民1人ひとりの森林保全に対する意識を高めます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 関 連	4 質の高い教育を みんなに	6 安全な水とトイレ を世界中に	13 気候変動に 具体的な対策を	15 海の豊かさも 守ろう
				

## 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	産業経済部 農林整備課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	佐藤 善行
主要施策	1項 豊かな自然の保全と育成	関係 課	生活環境課	
施策名	3号 野生鳥獣との共生			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

野生鳥獣による人身及び農作物への被害を防止するため、森林や里山の整備をすすめます。  
また、市民に野生鳥獣に関する正確な情報を伝え、被害防止の啓発を図るとともに関係機関と連携を行い、出没・生息状況の把握に努め、人身及び農作物への被害を防止し、多様な動植物との共生を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
215	○	自然環境保全事業		4,331	4,679	6,460				高い	B
		4   1   4	生活環境課								
		事業の取組内容		市内の自然環境調査を実施する。							
271	○	里山整備事業		22,081	21,579	0				やや高い	A
		6   2   2	農林整備課								
		事業の取組内容		里山の整備及び木材搬出に係る補助を行う。							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
			実績	実績	実績	実績	実績		
1	自然環境活動団体数 環境保全活動を行う市内団体数	13 (R1末)	目標値	14	15	15	15	15	団体
			実績値	17	20				
			達成率	121.4%	133.3%	%	%		
2			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		
3			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		
4			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		



## 5. その他特記事項

令和5年度から、里山整備事業は森林整備事業に統合しました。

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

里山整備の面積は年々増加し、山林と集落との緩衝帯を作ることによって野生鳥獣による人身及び農作物への被害防止につながっています。また、生物多様性調査の調査結果を市民に還元するため、生物多様性セミナーを開催し、鳥獣も含めた環境保全に関する啓発を行いました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	市民への環境保全に関する啓発により、成果指標の自然環境活動団体数が目標を上回り増加していることから「高い」と評価しました。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	里山整備事業による野生鳥獣の出没や被害等の軽減、生物多様性セミナーにおける鳥獣を含めた環境保全の啓発に寄与していることから「高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	野生鳥獣による被害を防止するため、里山整備事業の未着手となっている自治会等に制度の活用促進を図り、市内全域で里山整備を進めていくことが課題です。また、地域の自然を自ら保全するために、現在支援している団体の自立促進にかかる育成が課題です。			
今後の方向性	野生鳥獣による被害を防止するため、里山整備事業の活用促進を図ります。また、市民に対して鳥獣を含めた環境保全に関する啓発を行い、多様な動植物との共生を進めていきます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	人間と野生鳥獣の生息域を分けることで共生を図り、安全・安心な市民生活を維持していくよう取組を進めること。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 s	<b>4</b> 質の高い教育を みんなに	<b>6</b> 安全な水とトイレ を世界中に	<b>13</b> 気候変動に 具体的な対策を	<b>15</b> 海の豊かさ を守ろう
-----------------------	-----------------------------	-------------------------------	-------------------------------	----------------------------

## 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評 価 担 当 課	部課名	産業経済部 観光課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	鈴木 智博
主要施策	2項 自然の恵みを活かす仕組みづくりの推進	関 係 課	地域創生課	北部事務所
施策名	1号 自然環境を活用した地域づくりの推進		農林整備課	生涯学習課

## 2. 施策目的(目指すすがた)

四季折々の美しく豊かな自然を活かした地域の魅力を発信し、四季を通じた体験型観光や友好都市等との交流事業の取組を進めることにより、自然の魅力を伝え、魚沼市から行く尾瀬や雪国体験など、自然の恵みを活かした観光誘客に取り組み、市民や関係団体と協働で地域の活性化を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
34	○	地域交流推進事業		492	1,140	3,391				やや高い	B
		2   1   6	地域創生課 北部事務所								
事業の取組内容		友好自治体や、魚沼特使、在京郷人会等各団体との交流を行う。									
42	○	田舎暮らし体験事業		9	68	0				やや高い	C
		2   1   6	北部事務所								
事業の取組内容		田舎暮らしの疑似体験の場、また移住定住を検討する際の素材提供を行う。									
282		峠のふるさと広場施設運営事業		5,102	4,875	5,307				やや高い	A
		6   2   4	農林整備課								
事業の取組内容		峠のふるさと広場の施設運営と、施設を活用した自然体験イベント等を実施する。									
301	○	誘客宣伝事業		93,733	125,952	84,206				やや高い	B
		7   1   3	観光課								
事業の取組内容		魚沼市観光協会と連携し、本市の観光資源を活用した誘客宣伝活動を行う。									
302	○	体験型観光推進事業		20,521	21,501	18,744				やや高い	S
		7   1   3	観光課								
事業の取組内容		魚沼の自然や農林業を活用した体験型観光の誘客を図る。									
457		エコ・ミュージアム教育旅行受入事業		0	0	1,090				やや低い	C
		10   4   5	生涯学習課								
事業の取組内容		首都圏からの学校団体による教育旅行の受入や保育園児やシルバー世代等の幅広い年齢層へのプログラム展開により、地域の活性化を図る。									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値		R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
				実績	実績	実績	実績	実績		
1	魚沼自然教室の 参加者数	9,388 (R1実績)	目標値	9,800	10,100	10,400	10,800	11,000	11,000	人 /年
			実績値	7,092	12,081					
			達成率	72.4%	119.6%	%	%	%		
2	ふるさと広場利用者数	2,980 (R1実績)	目標値	3,140	3,230	3,320	3,410	3,500	3,500	人 /年
			実績値	2,990	3,616					
			達成率	95.2%	111.9%	%	%	%		
3	観光客の入込数	1,654,763 (R1実績)	目標値	1,650,000	1,675,000	1,700,000	1,725,000	1,750,000	1,750,000	人 /年
			実績値	1,174,284	1,551,384					
			達成率	71.2%	92.6%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

味噌づくり体験や手漉き和紙を用いた工作体験を行い、ふるさと広場の施設利用者数が過去最多となったことから伝統技能の継続に貢献するとともに地域の活性化につながりました。また、市内観光においては、コロナ禍により来訪できなかった足立区の中学校の生徒が2学年まとめて来訪したこともあり、体験型観光の入れ込み客数は大幅に伸びました。コロナ禍の影響により一般観光客数が低迷する中、体験型観光入込客の増加は市内の観光産業の下支えとなりました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 観光客の入込数は目標値に届かなかったものの、自然教室の参加者数やふるさと広場の利用者数は最終目標値を上回ることができたことから「やや高い」と評価しました。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い コロナ禍が契機となりグリーンツーリズムやアグリツーリズムといった自然体験型観光のニーズは着実に高まっており、施策を構成する各事業の実施は、施策目標の達成につながります。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持 ○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し
課題	悪天候時に実施可能な体験メニューが限られているため、屋内での体験メニューを充実させていくことが課題です。また、閑散期をつくらないようにするため、農業体験以外のプログラム開発と営業活動をしていくことが課題です。		
今後の方向性	新たな体験メニューの開発やブラッシュアップを加え、新規の来訪者の誘客や来訪者の満足度向上を目指します。		

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持 ○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し
課題	一次評価のとおり。		
今後の方向性	一次評価のとおり。		

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
連

8  
働きがいも  
経済成長も

17  
パートナーシップで  
目標を達成しよう

### 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	産業経済部 農林整備課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	佐藤 善行
主要施策	2項 自然の恵みを活かす仕組みづくりの推進	関係 課		
施策名	2号 森林資源の利活用の推進			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

森林や里山づくりにより産出されるさまざまな森林資源の地産地消を促進するとともに、地域の活性化をめざして、木質バイオマスエネルギーの有効活用と新たな利活用の取組をすすめ、森林資源の利活用を促進します。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
276	○	魚沼市産材活用促進事業		15,240	16,055	18,148				やや高い	B
		6 2 2 農林整備課									
		事業の取組内容	地元産材を利用した新たな商品開発及び販路拡大、木材の需要拡大を図る。								
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	森林資源の利用量	2,761 (R1実績)	目標値	3,110	3,280	3,450	3,630	3,800	3,800	t /年
			実績値	2,381	766					
			達成率	76.5%	23.3%	%	%	%		
2			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

魚沼市産材の家づくり事業補助金では11棟の利用があり、森林資源の利活用を図りました。また、市産材を活用した木製什器や玩具を製作し、保育園や小学校などの公共施設11か所に13点を設置しました。森林整備による利用間伐の約7割がバイオマス燃料として活用されました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	市産材の家づくり事業や木製什器・玩具の製作により、森林資源の利活用を図ったものの、市有林及び私有林の利用間伐が予定より進捗せず、成果指標の目標に到達していないことから「やや低い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	市産材の家づくり事業や木製什器・玩具の製作などにより、森林資源の地産地消と利活用が図られていることから「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	市産材を活用した木製什器や玩具は、市内公共施設への導入は進んでいるものの、市外に向けた販売実績までは結びついていないため、今後は新たな木工品を製作して販路を拡大していくことが課題です。			
今後の方向性	今後も利用間伐等の素材生産拡大に取り組み、市産材の地産地消と利活用を促進するために川上から川下までの流通体制の構築を図ります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	低い	森林資源の利用量が令和3年度と比較し大きく減少したことから「低い」と評価した。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	販路や需要が拡大されていると判断することができないことから「やや低い」と評価した。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し	○	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	年度ごとに利用量の差が大きくなるように取組を進めること。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	4 豊か自然、自然を みんなに	6 安全な水とトイレ を世界中に	8 働きがいも 生活にも 豊かさを	12 つなぐ責任 つなぐ未来	13 自然資源に 関係の公平を	15 海の豊かさを 守ろう
-----------------------	--------------------	---------------------	-------------------------	-------------------	--------------------	------------------

## 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	教育委員会事務局 生涯学習課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	青柳 洋介
主要施策	3項 自然に親しみ、学び、誇りを持てるふるさとの創造	関係 課	生活環境課	農林整備課
施策名	1号 環境教育と環境学習の推進		学校教育課	

## 2. 施策目的(目指すすがた)

市民が自然に触れ合い、ふるさとの価値や良さを知り、環境を大切にすることを育むために、豊かな自然やさまざまな地域資源を活用した環境教育を推進します。  
また、わかりやすく参加しやすい学習機会を提供し、市民一人ひとりの環境意識の高揚を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
215	○	自然環境保全事業		4,331	4,679	6,460				高い	B
		4 1 4	生活環境課								
		事業の取組内容		市内の自然環境調査を実施する。							
274	○	森林体験・環境学習事業		321	675	0				やや低い	C
		6 2 2	農林整備課								
		事業の取組内容		森林を活用した体験メニューやインストラクターの充実を図る。							
377	○	自然環境学習推進事業		2,774	4,441	5,684				高い	A
		10 1 3	学校教育課								
		事業の取組内容		小学校5年生を対象に、尾瀬での自然環境学習を行う。							
456		エコ・ミュージアム運営事業		6,047	5,993	8,971				やや高い	C
		10 4 5	生涯学習課								
		事業の取組内容		県立浅草山麓エコ・ミュージアムの管理運営を行う。							
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値		R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
				実績	実績	実績	実績	実績		
1	環境学習講座等の 参加者数	2,609 (R1実績)	目標値	2,300	2,600	2,800	3,000	3,000	3,000	人 /年
			実績値	1,071	1,556					
			達成率	46.5%	59.8%	%	%	%		
2			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

自然環境保全調査をとおして、多くの市民から魚沼市の生態系に興味を持っていただくことができました。また、環境学習においては、市民ボランティアが欠かせない存在となっており、活動で得た知識を指導者として伝えることで市民の環境学習に役立っています。

また、小中学生においては自然観察、炭焼き体験及び尾瀬学習を通じて森林保全や環境保全に対する意識を高めることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	ふるさとの価値や良さを知り、環境を大切にすることを育むという観点から見ると、講習会や体験講座など多様な学習機会が提供され、幅広い年齢層への環境学習の場を提供することができましたが、参加者数は少なかったため「やや低い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	小中学生を中心とした、魚沼の自然を活用した環境学習プログラムを実施し、環境学習の推進に貢献しています。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	環境教育及び環境学習を推進するため、新規インストラクターや若い世代の人材確保と養成が課題となっています。			
今後の方向性	各地区の公民館活動における環境学習講座をはじめ、全市民を対象とした生物多様性セミナーの開催や、市内の小学校5年生が体験する尾瀬学習、森林整備や森林保全に関する講習会を開催し、エコ・ミュージアムでの自然教育など、市民の皆さんへの様々な学習機会の提供とともに学習プログラムの開発も進めながら、各環境学習講座の担い手となる指導者育成に取り組みます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し		
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
連  
結

6  
安全な水とトイレを世界中に

11  
住み続けられるまちづくりを

12  
つくる責任つかう責任

13  
気候変動に具体的な対策を

14  
海の豊かさを守ろう

15  
陸の豊かさを守ろう

### 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 生活環境課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	小林 淳
主要施策	3項 自然に親しみ、学び、誇りを持てるふるさとの創造	関係 課		
施策名	2号 市民協働による環境保全活動の推進			

### 2. 施策目的（目指すすがた）

市民や関係団体の環境保全活動の活性化と拡大を図るため、環境に関するさまざまな情報を提供するなど啓発活動を行うとともに、その担い手となる人材や団体などの育成をすすめます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
214		環境衛生管理事業		3,308	3,965	4,726				やや高い	B
		4   1   4	生活環境課								
		事業の取組内容		環境美化運動、環境啓発事業、花いっぱい運動等を実施する。							
215	○	自然環境保全事業		4,331	4,679	6,460				高い	B
		4   1   4	生活環境課								
		事業の取組内容		市内の自然環境調査を実施する。							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
			実績	実績	実績	実績	実績		
1	自然環境活動団体数	13 (R1末)	目標値	14	15	15	15	15	団体
			実績値	17	20				
			達成率	121.4%	133.3%	%	%		
2			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		
3			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		
4			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		



## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

市民から協力をいただき、春秋の環境美化運動、花いっぱい運動等の環境保全事業を継続して実施しています。また、毎年10月に開催している環境フェアにおいては、環境保全啓発を実施し、多くの市民に興味関心をもっていただいています。

生物多様性調査においては、調査活動に市民ボランティアから参加していただいております。3月には調査結果を報告する市民公開セミナーを開催し、市民の環境保全への理解を深めることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 環境美化運動の参加者、環境フェアへの来場者等の実績から環境に対するPRや環境保全に対する意識の醸成が図られています。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 自然環境への理解とふれあいの場を作るため、生物多様セミナーや標本教室等を開催し、多くの市民から参加していただきました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	地域の自然を自ら保全するために自然環境活動を行っている団体の構成員も多くが高齢化してきていることから、今後は次の世代にその活動を継承していくことが課題です。			
今後の方向性	効果的な環境政策を進めるため市民協働を継続する必要があります。さらに、幅広い世代を巻き込みながら市民協働の自然環境保全調査、環境保全活動を推進していきます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 関 連	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任	14 海の豊かさを 守ろう
			

### 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 生活環境課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	小林 淳
主要施策	4項 循環型社会環境の整備	関係 課	農政課	
施策名	1号 ごみの減量化とリサイクルの推進			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

家庭や事業所からのごみの発生や排出を抑制し、限りある資源を有効に活用するため、ごみの分別と3Rの啓発活動を積極的にすすめ、引き続きごみを資源に変えるリサイクル意識の醸成を図り、持続可能な循環型社会の構築をめざし、ごみの減量化と再資源化を推進します。  
また、ごみ処理業務における広域的な協力体制の構築をすすめます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
255		地域バイオマス施設整備事業		0	36,866	2,409				やや高い	B
		6 1 3	農政課								
		事業の取組内容	有機センターの施設改修や車両更新等を行う。								
520		ごみ処理事業		509,359	535,851	660,857				高い	B
		4 2 2	生活環境課								
		事業の取組内容	ごみ処理施設の維持管理を行う。								
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位
1	市民一人当たりの一般廃棄物排出量	目標値	997	995	993	991	990	990	g /日
		実績値	1,109	1,098					
		達成率	88.7%	89.6%	%	%	%		
2	リサイクル率	目標値	18.3	18.5	18.7	18.9	19.0	19.0	%
		実績値	19.2	18.0					
		達成率	104.9%	97.2%	%	%	%		
3		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		
4		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

<p>目標には達していないものの、市民一人当たりの一般廃棄物排出量は減っているため、持続可能な循環型社会に近づけているものと考えます。</p>
---

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一般廃棄物の排出量が減ったため、市民一人当たりの一般廃棄物排出量は減少していますが、資源化量が減ったためリサイクル率については低下してしまいました。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 廃棄物を処理することにより資源化し、最終的に埋立処理するものを減少させ環境負荷の低減に貢献しています。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	家庭系一般廃棄物は減少しているものの、事業系一般廃棄物の搬入量が横ばいであるため結果として市民一人当たりの一般廃棄物排出量は微減となっています。当該指標の改善には事業系一般廃棄物の抑制が課題です。			
今後の方向性	ごみ処理施設の更新に併せ、廃棄物を資源として活用するための分別種類及び収集方法、または資源化の方法についても検討していきます。 併せて事業系一般廃棄物の抑制に関する対策として事業者用ガイドブックを作成し、廃棄物の減量化に取り組みます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	事業系一般廃棄物を抑制するため、新たに令和5年度から作成する事業者用ガイドブックを浸透させていくことが課題である。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 s	 7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに	 気候変動に 具体的な対策を
-----------------------	------------------------------	----------------------

### 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 生活環境課
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	小林 淳
主要施策	4項 循環型社会環境の整備	関 係 課		
施策名	2号 地球温暖化対策の推進			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

地球温暖化対策の取組を計画的・総合的に推進し、公共施設、事業所、家庭において、省エネルギー、自然エネルギーの活用の普及啓発を図ります。  
また、太陽光発電や雪冷熱、木質バイオマスなど再生可能エネルギーの普及拡大を図ります。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業 No.	重点 事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
218	○	地球温暖化対策事業		2,209	7,149	21,088				やや高い	B
		4 1 4	生活環境課								
		事業の取組内容		省エネルギー啓発、新エネルギー利用促進、カーボン・オフセット事業等の温暖化防止の取組を行う。							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
			実績	実績	実績	実績	実績		
1	再生可能エネルギー機器 設置件数	18 (R1実績)	目標値	30	30	40	50	55	件/年
			実績値	10	16				
			達成率	33.3%	53.3%	%	%		
2	バイオマスの利用率	83.0 (R1実績)	目標値	85	87	89	91	92	%
			実績値	83	88				
			達成率	97.6%	101.1%	%	%		
3			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		
4			目標値						
			実績値						
			達成率	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

省エネルギー、自然エネルギーの活用の普及啓発を図るため、「エコチャレンジ事業」「地球温暖化対策ワークショップ事業」などを実施し、市民に向けて地球温暖化対策や身近な省エネの実践を呼びかけました。ほかにも、地球温暖化防止の普及・啓発を図るため、啓発イベント「魚沼市環境・交通安全フェア」を開催し、クールチョイスへの署名活動や、地球温暖化対策ワークショップの成果展示等を行いました。また、太陽光発電や雪冷熱、木質バイオマスなどの再生可能エネルギーの普及拡大を図るため、再エネ機器等の設置に要する費用の一部に補助を行いました。また、カーボンオフセット事業を実施し、環境に関心のある自治体、事業所からクレジットを購入いただき、CO2削減に貢献していただくことができました。

これらの事業を継続して実施することで、家庭や事業者等の意識啓発に寄与しました。また、補助制度の利用等により地球温暖化対策は進んでいると考えられます。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	再生可能エネルギー機器設置件数について、目標値に対し開きがある状況のためです。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	再生可能エネルギー機器設置件数は目標値に及んでいないものの、事業所、家庭における再エネ機器導入の動機づけとして必要な補助と考えます。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	地球温暖化対策は目に見える形での成果が得られにくい分、市民一人ひとりの意識付けが重要です。より多くの市民・事業者等の意識醸成を図り行動につなげていくことが課題です。 国や県が2050カーボンニュートラル（温室効果ガス排出実質ゼロ）を目標としていることを踏まえ、市でも脱炭素化に効果的な施策を見極め、実行していくことが課題となっています。			
今後の方向性	地球温暖化対策については、長期的に取り組んでいくことが必要です。地球温暖化対策実行計画の目標値の改定を行ったうえで、県などの関係機関と連携しながら、市民や事業者を巻き込むような取組を構築していく必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	Jクレジット(※)の認証量増加についても検討を行うこと。 ※Jクレジット制度…省エネルギー設備の導入や再生可能エネルギーの利用によるCO2等の排出削減量や、適切な森林管理によるCO2等の吸収量を「クレジット」として国が認証する制度。本制度を活用した場合、地球温暖化対策への積極的な取組としてPR効果が期待できることに加え、クレジットを温室効果ガスを排出する側の大企業等へ売却することで、売却益を得ることができる。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
連  
s

6  
健全な水とトイレを世界中に

11  
気候変動に脅かされるまちづくりを

12  
つくる責任つかう責任

13  
気候変動に脅かされる持続可能な自然資本を

14  
海の豊かさを守ろう

15  
陸の豊かさを守ろう

### 1. 基本情報

施策分野	環境衛生・自然	評価担当課	部課名	市民福祉部 生活環境課	
基本目標	2節 豊かな自然と人が共生するまちづくり		担当課長名	小林 淳	
主要施策	4項 循環型社会環境の整備	関係課			
施策名	3号 公害の抑制と生活環境の保全				

### 2. 施策目的(目指すすがた)

公害発生を未然に防ぎ、身近な生活環境を良好に保つために監視活動や環境意識向上のための啓発活動に努めます。  
また、市民が中心になった環境美化運動を推進し、ごみのないきれいなまちづくりをめざして生活環境の保全に努めます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
214		環境衛生管理事業		3,308	3,965	4,726				やや高い	B
		4 1 4	生活環境課								
		事業の取組内容 環境美化運動、環境啓発事業、花いっぱい運動等を実施する。									
216		環境監視員設置事業		1,040	1,208	1,150				やや高い	B
		4 1 4	生活環境課								
		事業の取組内容 環境監視員による巡回監視活動を実施し、公害の発生抑制と不法投棄を防止する。									
217		公害対策事業		4,326	4,320	4,643				高い	B
		4 1 4	生活環境課								
		事業の取組内容 騒音、振動、悪臭等の苦情処理及び調査、河川水質検査、広報等の未然防止活動を行う。									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	環境美化運動の参加者数	7,737 (R1実績)	目標値	8,200	9,300	10,400	11,500	12,700	12,700	人/年
			実績値	9,763	8,867					
			達成率	119.0%	95.3%	%	%	%		
2			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

環境美化運動については自治会等の活動として定着してきており、花いっぱい運動については活動団体の増加がみられることから、環境美化活動が促進され、生活環境の保全に貢献しています。  
 公害等の苦情については、必要に応じ現場確認等の事案対応を行い、事態の終息に努めました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 環境美化運動において、感染症の渦中にありながらも「ごみを無くしきれいにする」という意識から多くの参加者を得ており、地域美化が進められています。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 多くの市民と行政が協力しながら効果的に施策を実施しており、生活環境の保全や公害抑制に貢献していると考えます。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持 ○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し
課題	環境美化運動や環境監視員による監視活動を継続していますが、依然として不法投棄の件数が多い状況が続いています。 公害苦情について、長期間に渡り解決に至らない案件があります。原因解決のため、引き続き関係機関、部署との連携を密にする必要があります。		
今後の方向性	生活環境の保全に寄与する事業を継続して実施します。 不法投棄や公害苦情については、関係機関や関係部署と連携し、解決に向け、対応します。 長期継続の苦情案件については、引き続き原因者に対して苦情内容を共有した上で面談や申入れ等を通じて対策の要望を継続していきます。		

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持 ○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し
課題	一次評価のとおり。		
今後の方向性	一次評価のとおり。		

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	2	3	6	12	14	15	17

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 健康増進課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	岡部 忍
主要施策	1項 心身ともに健康で笑顔あふれる暮らしの創造	関係 課	企画政策課	生涯学習課
施策名	1号 健康づくりの推進			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

市民一人ひとりが、自らの健康について考え、自主的に健康づくりに取り組むことができるよう、各年代に適した栄養・食生活・身体活動・こころの健康・休養などに関する情報の発信や動機付け(インセンティブ)を提供します。また、加齢に伴う心身の機能低下の予防に関して若い世代から取り組めるよう普及啓発を行います。

からだの健康とともにこころの健康について、悩みを抱えた人の孤独を防ぐため、保健・医療・福祉だけでなく、一人ひとりが身近な人の状況に気づき・つなぎ・見守りができるネットワークの充実を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
185		心の健康づくり推進事業		274	748	1,514				やや高い	A
		4 1 1	健康増進課								
事業の取組内容		心の健康についての普及啓発、ハイリスク者対策、支援ネットワークの構築等を行う。									
203		電話健康相談事業		2,040	1,776	-				高い	A
		4 1 1	健康増進課								
事業の取組内容		急病の対処法、家庭内の応急手当、受診の目安等の電話相談に24時間対応する。									
207		保健対策事業		1,026	1,342	5,449				やや高い	B
		4 1 3	健康増進課								
事業の取組内容		健康教育・個別訪問指導・健康情報の発信等を行う。									
208		歯科保健事業		5,429	5,010	7,871				高い	A
		4 1 3	健康増進課								
事業の取組内容		乳幼児歯科保健、成人歯科保健、フッ化物洗口等を実施する。									
210	○	食でつながる元気なまちづくり推進事業		2,891	3,754	3,689				やや高い	A
		2 1 6	企画政策課								
事業の取組内容		「食」の課題に連携して取り組み、市民の健康づくりと産業の向上を目指す。									
211		健康づくり支援事業		1,042	1,162	-				高い	A
		4 1 3	健康増進課								
事業の取組内容		健康ポイント制度を実施する。									
460	○	市民スポーツ普及事業		12,582	13,834	15,867				やや高い	B
		10 5 1	生涯学習課								
事業の取組内容		スポーツフェスティバルや各種運動教室を開催し、市民の健康増進や生きがいづくり、スポーツ実施率の向上を図る。									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位	
1	自分が健康であると感じている人の割合 総合計画市民アンケートより(次回はR6に実施)	79.8 (R1調査)	目標値	—	—	—	85	—	85	%
		実績値	—	—						
		達成率	%	%	%	%	%			
2	5年間平均の自殺死亡人数	11.2 (H26~H30平均)	目標値	11.0	10.0	10.0	10.0	10.0	10以下 (R3~R7平均)	人
		実績値	8.8	8.8						
		達成率	120.0%	112.0%	%	%	%			



## 5. その他特記事項

電話健康相談事業・健康づくり支援事業は令和5年度から保健対策事業に統合します。

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

むし歯有病率は大幅に低下し、家庭血圧測定する人の割合と喫煙率は目標を達成したことから健康増進に寄与しました。

また、うおぬま元気ポイントと食まちイベントの参加者数が増加したことから、市報やFMうおぬま等の普及啓発によって市民の健康意識向上につながり、健康づくりに興味・関心を持ち活動している市民が増えたと考えられます。

ゲートキーパー養成では目標を上回る人数の参加があり、相談先の周知や関係職種とのネットワークも充実してきたことから、自殺対策が進みました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

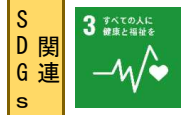
評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	各事業を実施するにあたり 対象となる年代を明確にして事業の周知方法や取組を考え効果的にアプローチすることが課題です。			
今後の方向性	他団体や他事業と連携し周知の強化を図り、対象となる年代を明確にして関心を持ってもらう取組を考えていく必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------



### 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 健康増進課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	岡部 忍
主要施策	1項 心身ともに健康で笑顔あふれる暮らしの創造	関係 課		
施策名	2号 疾病予防と重症化防止対策の推進			

### 2. 施策目的（目指すすがた）

病気の予防、早期発見及び生活習慣病の重症化を防止するため、特定・基本健診及び各種がん検診の受診率向上を図ります。また、健（検）診結果をはじめとする各種データを活用し、疾病の予防と重症化防止のための健康相談・健康教育の内容を充実します。  
 新型インフルエンザ等をはじめとする各種感染症について、正しい知識の普及と感染予防に努めます。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
204		基本健診事業		3,183	3,311	4,870				やや高い	C
		4   1   3	健康増進課								
		事業の取組内容 健康増進法に基づく健康診査や保健指導を実施する。									
206		がん検診事業		44,942	61,847	78,148				やや高い	C
		4   1   3	健康増進課								
		事業の取組内容 各がん検診の実施、個別受診の勧奨、がん予防のための普及啓発等を行う。									
519		予防接種事業		419,989	340,547	294,768				高い	B
		4   1   3	健康増進課								
		事業の取組内容 予防接種により疾病に対する免疫を保有し、感染症の発生及びまん延を予防する。									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	特定健康診査受診率	52.0 (H29実績)	目標値	58	59	60	63	65	65	%
			実績値	49.3	未確定					
			達成率	85.0%	%	%	%	%		
2	特定保健指導実施率 (市集団検診実施分)	48.4 (H29実績)	目標値	58	59	60	63	65	65	%
			実績値	41.6	未確定					
			達成率	71.7%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

特定健診受診率及び特定保健指導実施率は、働き盛り世代の状況を把握でき、また全国及び県との比較ができるため成果指標としましたが実績値が確定するのは翌年の12月頃となります。

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

けん診未受診者に対し受診勧奨を行ったことにより、受診率が増加し、疾病の早期発見・早期治療につながりました。  
 各種けん診データを基に生活習慣病予防の動画を作成し、市民に分かりやすい形で周知しました。  
 予防接種では誕生から入学までの接種スケジュールが分かる「予防接種予診票つづり」を作成し、正しい知識の普及を図りました。定期任意接種及び新型コロナウイルスワクチン接種について、関係機関と連携し接種体制を整え実施したことにより、麻しん・風しん、新型コロナウイルス感染症をはじめ、全国的に感染症のまん延が発生している中でも、発症者の抑制につながり、市内においては各種感染症の大規模まん延を防ぐことができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	けん診受診率は目標に達していないものの、受診勧奨による受診率の増加したこと及びけん診結果から疾病の早期治療につながったことから「やや高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	定期的なけん診受診と生活習慣の改善、予防接種の実施等は、心とからだの健康を保つために取り組むべき事業であるため、「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し	
課題	40～50歳代のけん診受診率の向上と、けん診結果で精密検査等で医療が必要な人は確実に受診につなげること、今後新たな感染症が発生した時に対策を講じられるようにすることが課題です。			
今後の方向性	けん診開始年齢からけん診受診周知や受診啓発健康づくりにつながる情報発信を実施し、けん診と精密検査未受診者には受診勧奨を行い、病気の予防・早期発見・早期治療を目指します。各感染症の最新情報を市民にお知らせし、新たな予防接種への助成等も検討していきます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結						

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	教育委員会事務局 子ども課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	関 祐樹
主要施策	2項 安心して産み育てる喜びを感じることができる社会の構築	関係 課	企画政策課	地域創生課
施策名	1号 子育て支援			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

育児不安を受け止め、子育て世代が孤立しないように子育てに寄り添い、すべての保護者が子育てや子どもの成長に喜びや生きがいを感じられるよう、子どもの健やかな成長を地域全体で見守り、育む仕組みづくりをすすめていきます。

妊娠期から子育てまで切れ目のない母子保健対策の充実と、子育てに関して身近な相談窓口である保育園、幼稚園、子育て支援センターと子育て世代包括支援センターとの連携を強化し、情報の発信と相談・支援体制の充実を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
36	○	男女共同参画事業	企画政策課	73	37	586				やや低い	C
		2   1   6									
		事業の取組内容	男女共同参画社会推進のため、各種意識啓発活動、市民講座等を実施する。								
47	○	うおめま出合いサポート事業	地域創生課	695	1,970	9,446				やや高い	B
		2   1   6									
		事業の取組内容	婚活イベント、結婚セミナー、結婚サポーター研修等を実施する。								
139	○	ひとり親家庭等医療費助成事業	子ども課	15,449	17,346	17,233				やや高い	A
		3   2   2									
		事業の取組内容	ひとり親世帯の保険診療の自己負担金の一部(児童は全額)を助成する。								
172	○	要保護児童相談・支援事業	子ども課	2,459	4,498	5,622				やや高い	B
		3   2   6									
		事業の取組内容	要保護児童及び要支援妊婦相談支援の実施等により児童虐待の防止を図る。								
194	○	母子健康相談・教育事業	子ども課	3,339	3,446	4,080				やや高い	B
		4   1   2									
		事業の取組内容	妊娠期から幼児期に関する正しい知識の普及、発達段階に応じた子育て教室等を実施する。								
195	○	乳児家庭全戸訪問事業	子ども課	394	382	682				やや高い	A
		4   1   2									
		事業の取組内容	生後4ヶ月までに訪問し、子育て支援の情報提供と養育環境の把握を行う。								
196	○	妊産婦医療費助成事業	子ども課	9,114	8,014	10,835				高い	A
		4   1   2									
		事業の取組内容	妊産婦の医療費で保険診療による自己負担金を全額助成する。								
197	○	妊産婦・新生児訪問事業	子ども課	1,041	840	1,511				やや高い	A
		4   1   2									
		事業の取組内容	助産師等による新生児と産婦訪問を実施する。								
198	○	不妊・不育治療費助成事業	子ども課	3,236	4,378	4,450				高い	A
		4   1   2									
		事業の取組内容	不妊・不育治療に要する費用の一部を助成する。								

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
199	○	妊婦健診助成事業		18,248	16,063	28,165				やや高い	B
		4 1 2	子ども課								
		事業の取組内容	妊婦健診について、一人当たり16回分を助成する。								
200	○	子ども医療費助成事業		87,689	93,644	94,658				やや高い	A
		4 1 2	子ども課								
		事業の取組内容	児童の医療費で保険診療による自己負担金を全額助成する。								
201	○	乳幼児健診事業		6,301	7,138	8,841				やや高い	B
		4 1 2	子ども課								
		事業の取組内容	法定以外にも健診の機会を設け、疾病予防や育児相談を行う。								
515	○	すこやかサポート事業		912	1,705	6,970				やや高い	A
		4 1 2	子ども課								
		事業の取組内容	子育て世代包括支援センターを設置し、妊産婦及び乳幼児の健康の保持及び増進に関する包括的な支援を行う。								

#### 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値		R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
				実績	実績	実績	実績	実績		
1	子育てが楽しいと感じる人の割合 4か月児健診時のアンケート調査での割合	4か月 89.2 (R1調査)	目標値	91.0	92.0	93.0	94.0	95.0	5ポイント増加	%
			実績値	95.8	92.1					
			達成率	105.2%	100.1%	%	%	%		
2	子育てが楽しいと感じる人の割合 1歳6か月児健診時のアンケート調査での割合	1歳6か月 84.9 (R1調査)	目標値	86.0	87.0	88.0	89.0	90.0	5ポイント増加	%
			実績値	87.0	89.0					
			達成率	101.1%	102.2%	%	%	%		
3	子育てが楽しいと感じる人の割合 3歳児健診時のアンケート調査での割合	3歳児 82.5 (R1調査)	目標値	83.5	84.5	85.5	86.5	87.5	5ポイント増加	%
			実績値	82.2	81.3					
			達成率	98.4%	96.2%	%	%	%		
4	ハッピー・パートナー企業登録数	12 (R1実績)	目標値	16	19	22	26	30	30	社
			実績値	13	14					
			達成率	81.2%	73.6%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

妊娠期から幼児期までの妊産婦を対象とした教室や産後ケアを行い、正しい子育て知識の普及を図ったことで、育児不安の解消につながりました。また、子に対しては新生児訪問から乳幼児健診等を通じ、健康管理や発達相談等を定期的に行い、健診等を受けていない家庭については個別に連絡し受診を勧めるなど、細やかな対応を行うことで、保育園等の入所につながりました。

令和4年度からは子育て支援センター内に、市内に住所を有する全ての子ども及びその保護者並びに妊産婦を対象とした相談窓口となる「子ども家庭総合支援拠点」を設置し、相談体制を広げて地域全体で子育て世代を見守る体制を構築しました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	成果指標の半数は目標値を超えておりますが、前年度と比べると実績値が減少したものがあため「やや高い」と評価しました。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	各事業において「高い」、「やや高い」が多数ですが、今後は更なる事業間の連携と支援事業の周知を図る必要があると考え、「やや高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	「子ども家庭総合支援拠点」や「子育て世代包括支援センター」等の関係機関が連携を深め、妊娠期から切れ目のない支援体制の強化を図り、さらに地域全体に相談窓口の周知を進めることで、助けを必要としている人が気軽に子育て相談しやすい環境を作り上げることが課題です。				
今後の方向性	現状の妊産婦等に対する包括的な切れ目のない支援を継続しながら、「こども家庭センター」設置を見据えた組織体制づくりを推し進めていく必要があります。				

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	全ての事業が今後の市政を左右する事業であることから「高い」と評価する。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	○
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。				
今後の方向性	「子育てのまち」日本一を目指し、取組を拡充していくこと。				



# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	1 貧困をなくそう	3 すべての人に健康と福祉を	4 質の高い教育をみんなに	5 ジェンダー平等を実現しよう	17 パートナシップで目標を達成しよう

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	教育委員会事務局 子ども課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	関 祐樹
主要施策	2項 安心して産み育てる喜びを感じることができる社会の構築	関係 課		
施策名	2号 子育て環境の充実			

## 2. 施策目的（目指すすがた）

保護者の就業状況など社会の変化による保育ニーズの多様化に対応するため、多面的な保育サービスの提供や、公立保育園の運営のあり方について検討します。  
乳児期から健やかな発達を支援するため、子育て支援センターや子育ての駅かたっくりの体制整備や施策の充実に加え、保護者や地域が共に学び、育ち、支え合えるよう情報提供に努めます。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
142		児童福祉施設整備事業	子ども課	9,735	88,928	233,658				高い	A
		3   2   3									
		事業の取組内容 施設の老朽化及び少子化の進行等に対応するため、施設の再編を実施する。									
169		地域療育支援事業	子ども課	8,781	9,466	11,110				やや高い	A
		3   2   6									
		事業の取組内容 発達障害またはその疑いがある幼児のため、療育教室や園訪問等を行う。									
173	○	子ども・子育て支援事業	子ども課	922	923	2,347				やや高い	B
		3   2   6									
		事業の取組内容 子ども・子育て新制度の推進に向けて計画策定、進捗管理を行う。									
514	○	子育ての駅運営事業	子ども課	15,368	23,671	29,757				やや高い	B
		2   1   6									
		事業の取組内容 子育ての駅かたっくりの管理運営									

## 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	ファミリーサポートセンター会員数	30 (R1調査)	目標値	40	50	60	70	70	70	人
			実績値	67	94					
			達成率	167.5%	188.0%	%	%	%		
2	この地域で今後も子育てをしていきたいと感じる人の割合(4か月健診)	96.9 (R1調査)	目標値	98	98	99	99	100	100	%
			実績値	93	96					
			達成率	94.8%	97.9%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		



## 5. その他特記事項

令和5年度から子育ての駅かたつきり（指定管理施設）が児童福祉施設に加わりました。

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

魚沼市子ども・子育て支援事業計画に基づき、保育サービスの提供や公立保育園運営を行い、魚沼市児童福祉施設長寿命化計画に沿った施設改修等を実施したことで、快適な保育環境を維持することができました。  
また、子育てに関する情報発信については、魚沼市ホームページの子育て専用サブサイト「子育て応援ネット まめんこ」を新たに開設したことで、スマホ等を利用して、何時でもどこからでもほしい情報の入手が容易となり、発信力が強化されました。加えて、更には、子育て支援情報を網羅した「子育て便利帳」の発行のほか、子育て支援センター等の施設を利用した広報活動を行い、ファミリー・サポート・センター会員増加が図られるなどの地域の子育て環境の充実につながりました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	ファミリー・サポート・センター会員については、目標値を大きく超えており、この地域で今後も子育てをしていきたいと感じる人の割合も100%ではないものの、実績値は高いことから「高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	地域の子育てに関する機運をさらに高め、子育て環境の充実と切れ目のない支援に向けた子育て関係機関の連携を密にしていく必要があることから「やや高い」としました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	子育ての駅かたつきりと子育て支援センターとの連携が希薄であるため、相互の事業周知や連携、必要な情報共有を進め、取組の効果を高めていくことが課題です。 また、コロナ禍により子育てに関する学び合いの場である子育てサークルの活動が大きく縮小していました。今後のサークル活動に対して、子育てサポーターの派遣などの支援体制を考えていくことが課題です。			
今後の方向性	所管施設には老朽化により改修等必要な施設があることから、魚沼市児童福祉施設長寿命化計画と現状を照らし合わせながら施設の長寿命化を図るとともに、魚沼市公共施設再編整備計画に基づき進めていきます。 また、指定管理施設の民間のノウハウを活用した子育て世代への情報発信や、子育てサークルの活動を通して子育てに関する学び合いの場の形成を後押ししていく必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
連  
S

3

すべての人に  
健康と福祉を

11

住み続けられる  
まちづくりを

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 福祉支援課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	戸田 千穂子
主要施策	3項 市民が安心して暮らせる仕組みの構築	関係 課	介護福祉課	
施策名	1号 すべての市民が自立できる環境の構築			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

障害のある人が、住み慣れた地域の中で、自立した日常生活、社会生活を送ることができるよう、相談体制を強化するとともに、一人ひとりに合った適切な福祉サービスの提供や、地域生活支援拠点等の整備をすすめます。

また、地域における自立と社会参加の実現に向けて、市民一人ひとりが相互に尊重し支え合い、障害のある人もない人もともに安心して暮らせるよう地域共生社会の実現に向けたまちづくりを推進します。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
104		精神障害者医療費助成事業		28,900	31,396	31,920				やや高い	A
		3 1 2	福祉支援課								
		事業の取組内容		精神障害(児)者の医療費の一部を助成し、疾病の早期治療及び発病の予防を促進する							
116	○	地域生活支援事業		97,393	101,019	115,749				やや高い	B
		3 1 2	福祉支援課								
		事業の取組内容		障害者等の総合的な相談業務、権利擁護、日常生活用具の給付、障害福祉サービス(訪問入浴、日中一時支援等)の給付等の事業							
129	○	高齢者生活支援事業		73,136	56,302	83,639				やや高い	A
		3 1 4	介護福祉課								
		事業の取組内容		軽度生活支援、食の自立支援、外出支援サービス、緊急通報体制整備等を行う							
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	自立し安心して生活できる環境の整備施策の満足度 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	40.2 (R1調査)	目標値	—	—	—	50	—	50	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
2	就労支援により 就労した人の数 (生活保護受給者+生活困難者)	3	目標値	4	4	4	5	5	5	人/年
			実績値	4	1					
			達成率	100.0%	25.0%	%	%	%		
3	就労継続支援事業所における 平均月額工賃(B型)	21,118 (R1調査)	目標値	19,000	20,000	21,000	22,000	23,000	23,000	円
			実績値	19,397	20,817					
			達成率	102.0%	104.0%	%	%	%		
4	障害に対する周囲の人の理解が進んでいると思う人の割合 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	20.2 (R1調査)	目標値	—	—	—	40	—	40	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

精神科の治療は、長期間にわたる場合が多いため、医療費助成による治療の継続と早期治療を促すことで、障害者の自立支援と社会生活の継続を支援することができたと考えます。  
また、障害者基幹相談支援センターの設置に向けて関係機関との調整を行ったことで相談体制の整備に向かって前進しました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 地域生活支援拠点事業（※）について、自立支援協議会で関係機関とシミュレーション等の検証を行いました。さらに、障害者基幹相談支援センターの設置に向けた調整ができたため「やや高い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 障害のある人が地域で自立して生活するためには必要な事業ですが、さらなる相談体制の整備が必要であるため「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持 ○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し
課題	障害者及び支援者の総合相談にへの対応と市内の相談支援体制の強化を図ることを目的とした「障害者基幹相談支援センター」を庁内に直営設置することで調整できたため、今後は本センターを基軸とした具体的な相談機能強化が課題です。		
今後の方向性	地域生活支援拠点事業（※）について、既存の障害福祉事業所の協力を仰ぎながら体制整備を進めます。 （※）地域生活支援拠点事業…障害者基幹相談支援センターが中心となり、障害者が地域での暮らしを継続できるように、緊急時の一時的な施設入所等を行う事業です。		

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い 一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持 ○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し
課題	一次評価のとおり。		
今後の方向性	一次評価のとおり。		

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
連  
結

1 差別をなくす

3 すべての人に健康と福祉を

5 ジェンダー平等を

9 産業と資源供給の持続可能性

11 住み続けられるまちづくりを

17 パートナリシップで持続可能な社会を

### 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	産業経済部 都市整備課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	齊藤 嘉文
主要施策	3項 市民が安心して暮らせる仕組みの構築	関係 課	生活環境課	建設課
施策名	2号 安心して暮らせる公共空間の整備			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

障害の有無にかかわらず、市民の誰もが安全で快適に暮らすことができる地域社会を実現するため、公共建物のバリアフリー化、交通機関や道路のユニバーサルデザイン化をすすめることにより、全ての人にやさしいまちづくりを推進します。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
39	○	公共交通総合連携事業		114,124	115,054	119,878				高い	A
		2   1   6	生活環境課								
		事業の取組内容 路線バス及び乗合タクシー運行事業者へ補助金を交付する。									
314		市道整備事業		216,231	193,247	543,200				やや高い	B
		8   2   2	建設課								
		事業の取組内容 幹線道路の整備及び利便性の高い交通ネットワーク強化、道路機能の向上促進等を行う。									
329		都市計画策定事業		0	5,687	15,682				やや高い	B
		8   4   1	都市整備課								
		事業の取組内容 都市計画マスタープランの更新に向け基礎調査等を行う。									
342		公営住宅整備事業		6,582	14,383	7,357				やや高い	A
		8   5   1	都市整備課								
		事業の取組内容 建物が老朽化した住宅団地を集約し、住宅の建替えを行う。									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	外出時に不都合や不安を感じている人の割合【段差等】 総合計画市民アンケートより(次回はR6に実施)	22.4 (R1調査)	目標値	—	—	—	20以下	—	20以下	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
2	外出時に不都合や不安を感じている人の割合【経費等】 総合計画市民アンケートより(次回はR6に実施)	17.7 (R1調査)	目標値	—	—	—	15以下	—	15以下	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

運転免許証自主返納者に対し乗合タクシー等共通回数券を交付することにより、自動車等の運転に不安を覚える方の自主返納を促進し、特に高齢者等に起因する交通事故の未然防止に寄与しています。  
 <令和4年度交付人数：161人（前年度 206人）>

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

公共交通体系の維持を図ることで通院や買い物など交通弱者の移動手段を確保し、日常生活を支援することができました。南魚沼市とともに実証運行を継続している路線バス路線は利用者が増加傾向にあり、通院者の利便性の向上に寄与しました。  
 歩道整備と市道拡幅改良を行うことで道路のユニバーサルデザイン化が前進し、市民の安全な歩行空間が増えました。また、市営住宅の計画的な集約により入居者の住替えが進み、市街地への居住誘導を図ることができました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	路線バスと乗合タクシーの運行費を助成することにより、自家用車に頼らない交通手段の維持を図ることができたことから「やや高い」と評価しました。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	公共交通体系の維持を図り市内全域において公共交通空白地を解消し高齢者等交通弱者の移動手段を確保することで安心して暮らせるまちづくりに寄与できたため「やや高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	公共交通に関しては、高齢化による移動ニーズの多様化への対応、交通業界全般の慢性的な人材不足の解消が課題です。居住誘導や道路整備など各事業の取組を把握し、公共建物のバリアフリー化、道路改良時におけるユニバーサルデザイン化を優先して事業を継続していくことが課題です。				
今後の方向性	都市計画マスタープラン及びコンパクトなまちづくりの実現に向けて、都市拠点と地域拠点への居住誘導、拠点を結ぶ地域交通の維持に引き続き取り組み、安全で快適に暮らすことができる地域社会の実現に努めていきます。				

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。				
今後の方向性	一次評価のとおり。				

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G S	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;"> <p><b>3</b></p> <p>すべての人に健康と福祉を</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>4</b></p> <p>質の高い教育をみんなに</p> </div> <div style="text-align: center;"> <p><b>11</b></p> <p>住み続けられるまちづくりを</p> </div> </div>
------------------	--

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 介護福祉課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	茂野 孝
主要施策	4項 高齢者が安心して生き生きと暮らせる仕組みの構築	関係 課		
施策名	1号 暮らしの支援体制の推進			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

住み慣れた地域の中で、高齢者が安心して自分らしい生活を送ることができ、また、介護者の負担も軽減できるようにするため、地域資源を活用した地域ネットワークの整備をすすめ、住まい、医療、介護、予防、生活支援サービスが切れ目なく提供されるよう「地域包括ケアシステム」を推進し、在宅医療と介護の連携強化を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
127	○	介護人材確保支援事業		882	46,503	87,285				やや高い	C
		3   1   3	介護福祉課								
		事業の取組内容		介護分野を支える人材育成マネジメントの支援を行う。							
129	○	高齢者生活支援事業		73,136	56,302	83,639				やや高い	A
		3   1   4	介護福祉課								
		事業の取組内容		軽度生活支援、食の自立支援、外出支援サービス、緊急通報体制整備等を行う。							
130	○	生きがい活動支援通所事業		22,271	19,760	26,907				やや高い	B
		3   1   4	介護福祉課								
		事業の取組内容		人との交流や日常動作訓練などを通じて、高齢者の生きがい活動と社会参加を促進し、要介護状態になることを予防する。							
介4	○	認知症総合支援事業		16,500	16,900	17,200				やや高い	B
		3   3   1	介護福祉課								
		事業の取組内容		認知症理解のための普及・啓発活動及び発症予防の推進、早期診断・早期対応のための体制整備を行う。							
介5	○	在宅医療・介護連携推進事業		9,000	9,465	9,400				高い	A
		3   3   1	介護福祉課								
		事業の取組内容		高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるように在宅医療と介護とを一体的に提供するための連携を図る。							

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値		R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
				実績	実績	実績	実績	実績		
1	地域で高齢者に関するボランティア活動に参加したい人の割合 魚沼市地域福祉推進計画策定時のアンケート調査	15.3 (R1調査)	目標値	—	45	—	—	45	45	%
			実績値	—	19.3					
			達成率	%	42.8%	%	%	%		
2	介護予防事業参加者の割合 第1号被保険者のうち、介護予防事業(若トレ等)参加者の割合	6.6 (R1調査)	目標値	8	8.5	9	9.5	10	10	%
			実績値	5.8	4.8					
			達成率	72.5%	56.5%	%	%	%		
3	要介護認定者の割合 介護保険事業状況報告(3月末の第1号被保険者の認定者の割合)	19.0 (R1実績)	目標値	20未満	20未満	20未満	20未満	20未満	20未満	%
			実績値	18.7	18.3					
			達成率	106.0%	108.0%	%	%	%		
4	市で実施する介護に関する入門的研修修了者数	24 (R1現在)	目標値	34	38	42	46	50	50	人
			実績値	36	43					
			達成率	105.9%	113.1%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

様々な高齢者生活支援や、生きがい活動支援、若トレ等を実施したところ、第1号被保険者の認定者の割合が目標を達成するなど、住み慣れた地域での高齢者の生活の維持に寄与しました。  
また、関係機関と連携し、3か所に設置した地域包括支援センターを中心に必要な支援を実施するなど、医療、介護、介護予防等が一体的に提供される地域包括ケアシステムの推進に寄与しました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを継続するには、健康の維持と介護予防が重要であり、それらの取組の成果により要介護の認定者の割合が目標を達成したと判断したため「やや高い」評価としました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	「地域包括ケアシステム」の推進や在宅医療と介護の連携強化のためには、事務事業の構成は妥当と判断したため「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	高齢化率が上昇し、支援を必要とする方が増加して来ている現状に対し、介護人材は不足しているため、引き続き夜勤手当支援やキャリアパス支援等様々な取組により新規就業者の確保と離職防止を図る必要があります。また、住み慣れた地域で、高齢者が安心して暮らし続けられるよう高齢者が利用しやすく、地域の実情に合ったサービスを提供していくため、関係機関と連携を密にして取り組んでいく必要があります。			
今後の方向性	総人口が減少している中、高齢化率が上昇し、認知症を患う方や一人暮らしの方など支援を必要とする方は増加しており、引き続き、高齢者が安心して住み慣れた地域で自分らしい暮らしを送ることができるよう「地域包括ケアシステム」をさらに推進していく必要があります。また、要介護状態になった場合でも、安心して暮らせるように、介護人材の確保に重点的に取り組む必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	○
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	入所施設の需要の高まりを踏まえ、施設整備を進めていくとともに、高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、「地域包括ケアシステム」をさらに推進していくこと。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G  
S

関  
連



### 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 介護福祉課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	茂野 孝
主要施策	4項 高齢者が安心して生き生きと暮らせる仕組みの構築	関係 課	生涯学習課	
施策名	2号 高齢者の社会参加の推進			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

価値観が多様化する中で、高齢者が社会の重要な一員として、これまで培ってきた高い技術や知識を活かし、生きがいを持って活躍できる場や生涯学習の充実を図ります。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
120		シルバー人材センター助成事業		10,300	10,300	10,300				やや高い	B
		3 1 3	介護福祉課								
		事業の取組内容		魚沼市シルバー人材センターの活動支援を行う。							
124		老人クラブ助成事業		9,860	9,610	9,900				やや高い	B
		3 1 3	介護福祉課								
		事業の取組内容		魚沼市老人クラブ連合会の活動支援を行う。							
444	○	地区公民館講座教室事業		654	1,302	3,255				やや高い	C
		10 4 2	生涯学習課								
		事業の取組内容		各種公民館講座教室、講演会等を開催する。							
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 実績	R7 実績	最終 目標値	単位
1	地域活動に参加している 高齢者の割合 高齢者福祉計画・介護保険事業計画策 定時実施の介護予防・日常生活圏域 ニーズ調査	目標値	—	25	—	—	40	40	%
		実績値	—	24.6					
		達成率	%	98.4%	%	%	%		
2	シルバー人材センター会 員数	目標値	510	520	530	540	550	550	人
		実績値	463	462					
		達成率	90.7%	88.8%	%	%	%		
3		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		
4		目標値							
		実績値							
		達成率	%	%	%	%	%		



## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

長引くコロナ禍においてもシルバー人材センターの会員数は横ばいで推移していたことから、センターへの活動支援等が高齢者の就労支援と社会参加の推進に寄与しました。

また、各地区老人クラブと連携して高齢者大学（老人クラブ会員を対象とした講座）で生涯学習の充実を図ったほか、わら細工の技術を持つ方にしめ縄作り教室の講師をお願いするなど、高齢者が培ってきた高い技術や知識をいかした活躍の場や、学びの機会の充実を図ったことで、高齢者の生きがいがいづくりと社会参加の推進に寄与しました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	シルバー人材センター会員数はコロナ禍でありましたが、横ばいで推移していることから、各種事業に意欲的に参加する高齢者は多く、また地域においては「身近な頼れる存在」として高いニーズがあることから「やや高い」と評価しました。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	シルバー人材センターの幅広い分野の事業や老人クラブの各種活動によって、多くの高齢者が社会参加、就労支援、生きがいがいづくりの場に参加できる環境づくりができていることから「やや高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	シルバー人材センター、老人クラブともに社会情勢の変化や趣味の多様化などにより、入会者の確保が課題となっており、解消に向けた支援等に取り組んでいく必要があります。				
今後の方向性	<p>シルバー人材センターは、コロナ禍の規制も緩和されたことから、更なる就業機会の確保とともに幅広いニーズに応えられるよう、研修会を開催するなど会員のスキルアップに積極的に取り組んでおり、高齢者の就労支援と社会参加の推進に果たす役割は非常に大きいことから、引き続き助成を実施していきます。</p> <p>高齢者の健康づくりやボランティア活動への参加をはじめ、様々な社会参加を通じて、人とのつながりができ、生きがいがいづくりや認知症予防にも寄与していますので、引き続き、老人クラブやシルバーセンターへの助成や支援をはじめ、有効となる各種取組を実施していきます。</p>				

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由		
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。		現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。		拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。				
今後の方向性	一次評価のとおり。				

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S  
D  
G

関連

3

すべての人に  
健康と福祉を

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価 担当 課	部課名	市民福祉部 健康増進課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり		担当課長名	岡部 忍
主要施策	5項 誰もが健康管理ができる安心で身近な地域医療の充実	関係 課		
施策名	1号 健康管理システムの充実			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

市民が地域で安心して暮らし続けられ、初期医療から高度医療まで、地域内で対応できるよう魚沼基幹病院及び市内診療所との連携の強化を図ります。  
医療機関等がそれぞれの役割を分担するなかで、病院、診療所及び在宅医療・在宅介護に関わる職種間での連携や患者情報を共有し、必要な医療及び介護へスムーズにつなげるため「うおぬま・米ねっと」の加入促進を図ります。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
189	○	地域医療対策事業		355	15,407	75,421				高い	B
		4   1   1	健康増進課								
		事業の取組内容	病院、診療所及び在宅での情報共有の促進と地域の医療資源の充実を図る。								
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	基幹病院を含めた市内医療提供体制の満足度 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	44.0 (R1調査)	目標値	—	—	—	75	—	75	%
			実績値	—	—	—		—		
			達成率	%	%	%	%	%		
2	うおぬま・米ねっと 加入率	27.0 (R1末)	目標値	30	35	40	45	60	60	%
			実績値	37	40					
			達成率	123.3%	114.2%	%	%	%		
3			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

「うおぬま・米ねっと」については、医療機関と介護施設との連携が可能となっており、介護サービス利用者の加入が増えたことにより加入率が伸びました。これによって医療と介護の職種間での連携や患者情報のスムーズな共有が図れています。


## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 医療、介護の連携が進み、加入率が目標を達成していることから「高い」と評価しました。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 「うおぬま・米ねっと」の活用で医療、介護の連携が進んでいること、また地域完結型医療の推進により、市内診療所、小出病院、魚沼基幹病院との連携強化が図られており、「高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	「うおぬま・米ねっと」については、今後在宅医療、在宅介護の需要が高まることが予想されます。医療と介護の情報共有がより一層重要となるため、加入促進に向けた取組が課題です。			
今後の方向性	地域完結型医療の実現に向け、医療機能の分化・連携が進められている中、今後、在宅医療の需要が増えることが予測されることから、医療、介護の連携をさらに進め、地域包括ケアシステムの実現に向けた医療体制の整備が必要です。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 一次評価のとおり。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)	S D G 連 結	 3 すべての人に健康と福祉を
------	----	----	--------	-----------------------	---

## 1. 基本情報

施策分野	健康・福祉	評価担当課	部課名	市民福祉部 健康増進課
基本目標	3節 生涯にわたり健やかで安心して暮らせるまちづくり	関係課	担当課長名	岡部 忍
主要施策	5項 誰もが健康管理ができる安心で身近な地域医療の充実		介護福祉課	
施策名	2号 医療資源の育成			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

医師・看護師などの地域内に不足する医療資源を充実させるため、修学資金の貸与事業を継続するほか、小出病院地域医療教育・研修センター、地域医療魚沼学校と連携し医療従事者の育成に取り組みます。  
医療及び介護サービス資源の把握や課題等を共有し、住み慣れた地域で生活できる在宅医療・介護の連携の取組をすすめます。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
189	○	地域医療対策事業		355	15,407	75,421				高い	B
		4 1 1	健康増進課								
		事業の取組内容 病院、診療所及び在宅での情報共有の促進と地域の医療資源の充実を図る。									
介5	○	在宅医療・介護連携推進事業		9,000	9,465	9,400				高い	A
		3 3 1	介護福祉課								
		事業の取組内容 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けることができるように在宅医療と介護とを一体的に提供するための連携を図る。									
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値		R3	R4	R5	R6	R7	最終 目標値	単位
				実績	実績	実績	実績	実績		
1	家庭で血圧を測っている人の割合 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	34.7 (R1調査)	目標値	—	—	—	40	—	40	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
2	かかりつけ医がある人の割合 総合計画市民アンケートより (次回はR6に実施)	61.9 (R1調査)	目標値	—	—	—	80	—	80	%
			実績値	—	—	—	—	—		
			達成率	%	%	%	%	%		
3	市立小出病院の常勤医師 人数	9 (R1現在)	目標値	9	9	9	9	9	9	人
			実績値	9	10					
			達成率	100.0%	111.1%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

在宅医療と介護を一体的に提供するために、多職種連携ワーキングチームによる課題の抽出と対応策についての検討や情報共有を図ったほか、医療機関や介護事業所等の多職種連携研修や事例検討会を行い、支援者間の顔の見える関係作りと連携強化が図られました。

ACP(※)を普及啓発することにより、円滑な医療・介護の連携に資することができました。

医師等修学資金貸与者数については、目標数は達成できませんでしたが一定程度の実績もあり、医師・看護師が不足している本市において、修学資金の貸与は医療資源の確保を図るための有効な手段の一つであり、未来の医療人材の確保に向けて前進しています。

(※) ACP (Advance Care Planning) …将来の変化に備え、将来の医療及びケアについて、本人を主体に、そのご家族や近しい人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、本人による意思決定を支援する取組のこと。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 多職種連携研修や、講演会や講座を開催し、市民への普及啓発に努め、また、小出病院の常勤医師を目標値以上確保できていることから「高い」と評価しました。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 限られた医療資源のなかで、医療と介護の連携を図り、効率的にサービスを提供できるよう取り組んでおり施策に貢献しています。また将来のための医療人材の育成、確保は地域医療の継続につながることから施策に貢献しているため「高い」と評価しました。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し	
課題	医療機関及び介護施設の関係機関との連携は取れてきていますが、医療と介護とが連携する地域包括ケアシステムについて市民への普及啓発が不足しています。また、看護師確保においては、修学資金の貸与者が市内医療機関へ就職しており、一定数の人材確保に貢献していますが、退学や進路変更、就職後の離職がみられることから、魚沼市医療公社や診療所と連携して貸与者の市内就職や定着を確実にすることが課題です。			
今後の方向性	今後さらに高齢化が進み、在宅医療の需要が増加することが予想されることから、小出病院を拠点とした地域包括ケアシステムの構築に向けて、多職種連携は継続して取り組む必要があります。また医療資源を充実するために医療人材の確保を継続するほか、ICTの活用も積極的に取り組む必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 一次評価のとおり。	
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い 一次評価のとおり。	
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変化はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
		目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。	改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	2 健康を 増進	3 質の高い 教育を 実現	6 安全な水と 衛生を 確保	11 住み続け るまち づくり	12 つながる 持続性 のまち づくり	14 海の豊か さを 増進	15 陸の豊か さを 増進

## 1. 基本情報

施策分野	産業	評価 担当 課	部課名	産業経済部 農政課
基本目標	4節 豊かな地域資源を活かした力強い産業を創るまちづくり		担当課長名	星野 崇
主要施策	1項 地域資源の活用による産業の振興	関係 課	地域創生課	企画政策課
施策名	1号 新たな特産品づくり、ブランド化の推進			

## 2. 施策目的(目指すすがた)

本市には魚沼産コシヒカリや山菜をはじめとした豊かな農林水産物や魅力ある食文化があります。これらの地域資源を活用した新たな特産品づくりをすすめ、食のまちづくりの推進により魚沼ブランドの積極的な情報発信や高付加価値化を図り、販路の開拓及び拡大に取り組みます。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
46	○	ふるさと結基金事業		1,439,761	1,521,384	1,307,063				高い	S
		2   1   6	地域創生課								
		事業の取組内容	ふるさと納税に係る事務を委託し、全国から広く寄附を募るとともに地元産品をPRする。								
210	○	食でつながる元気なまちづくり推進事業		2,891	3,754	3,689				高い	A
		2   1   6	企画政策課								
		事業の取組内容	「食」の課題に連携して取り組み、市民の健康づくりと産業の向上を目指す。								
245	○	農産物ブランド力強化事業		5,609	13,143	16,002				高い	B
		6   1   3	農政課								
		事業の取組内容	地産地消の啓発、魚沼ブランド推奨品の普及、6次産業化支援、販路拡大支援を行う。								
522	○	インターチェンジ名称変更事業		0	1,626	94				やや高い	B
		2   1   6	企画政策課								
		事業の取組内容	交流人口の拡大、産業振興、利便性の向上及び市民の一体感の醸成のため、インターチェンジの名称変更に取り組む								

## 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3 R4 R5 R6 R7					最終 目標値	単位	
			実績	実績	実績	実績	実績			
1	魚沼ブランド推奨品の数	57 (R1末)	目標値	60	60	65	65	70	70	品
			実績値	68	72					
			達成率	113.3%	120.0%	%	%	%		
2	市内直売所年間販売額 市内直売所の年間販売額	215,809 (R1実績)	目標値	216,000	217,000	218,000	219,000	220,000	220,000	千円/年
			実績値	210,987	195,168					
			達成率	97.6%	89.9%	%	%	%		
3	ふるさと納税額 寄附金額	2,100,000 (R1実績)	目標値	2,100,000	2,200,000	2,300,000	2,400,000	2,500,000	2,500,000	千円/年
			実績値	2,806,187	2,822,493					
			達成率	133.6%	128.2%	%	%	%		
4			目標値							
			実績値							
			達成率	%	%	%	%	%		

## 5. その他特記事項

ブランド農産物等の新たな認定制度を構築するためプレミアム認定協議会を設立しました。

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

県内外のイベント、物販等への出店をはじめ、ふるさと納税を通じたブランド農産物、本市の特産品のPR等による本市産の認知度の向上と、新たにスタートした魚沼市プレミアム認定制度によりブランド力向上が進みつつあります。魚沼インターチェンジへの名称変更に向けた理解促進とあわせて、本市のPRと販路開拓・拡大に向かう体制整備が図られつつあります。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	直売所年間販売額は、目標に届かず前年より減少しましたが、ブランド推奨品数、ふるさと納税額ともに前年実績、目標を上回る成果を達成しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	本市特産品のPRをはじめ、新たな特産品づくりや、豊かな農林水産物や魅力ある食文化の発信等により、ブランド力向上、販路拡大に向けて各事業が成果を発揮し、貢献していると言えます。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	○
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	持続的な本市特産品のPR、販路拡大等から本市の魅力発信につなげ、発展させていくには、市民、事業者、関係団体、行政が一体となった協働体制の強化が課題です。			
今後の方向性	プレミアム認定制度の周知など市産品の品質や魅力向上について、官民が一体となって取り組み、インターチェンジの名称変更や市制施行20周年事業とあわせた情報発信を行うことにより、これまで以上のふるさと納税の増額や販路開拓・拡大を図ります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	○
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G S	8 働きがいも 経済成長も	17 パートナーシップで 目標を達成しよう
------------------	---------------------	-----------------------------

### 1. 基本情報

施策分野	産業	評価 担当 課	部課名	産業経済部 商工課
基本目標	4節 豊かな地域資源を活かした力強い産業を創るまちづくり		担当課長名	吉田 英樹
主要施策	1項 地域資源の活用による産業の振興	関係 課	農林整備課	
施策名	2号 新製品開発や新技術の確立に向けた取組の支援			

### 2. 施策目的(目指すすがた)

地域の豊富な食材、森林資源、雪や水などの資源を活用した新製品の開発や新技術の確立、新分野への進出や新産業の創出に向けた企業の取組を支援します。

### 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
276	○	魚沼市産材活用促進事業		15,240	16,055	18,148				やや低い	B
		6   2   2	農林整備課								
		事業の取組内容		地元産材を利用した新たな商品開発及び販路拡大、木材の需要拡大を図る。							
288	○	地域産業活性化事業		4,860	5,086	14,050				やや低い	C
		7   1   2	商工課								
		事業の取組内容		産業技術支援、販路拡大のための補助金、魚沼ものづくり振興協議会への補助金等の交付を行う。							
		事業の取組内容									
		事業の取組内容									

### 4. 成果指標の達成状況(※成果を判断する客観的根拠)

No.	成果指標名 指標の説明	現状値	R3					R4					最終 目標値	単位
			実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績	実績			
1	新製品の開発支援事業による事業化件数	5 (H28~R1累計)	目標値	2	4	6	8	10	10 (R3~R7累計)	件				
			実績値	2	2									
			達成率	100.0%	50.0%	%	%	%						
2			目標値											
			実績値											
			達成率	%	%	%	%	%						
3			目標値											
			実績値											
			達成率	%	%	%	%	%						
4			目標値											
			実績値											
			達成率	%	%	%	%	%						



## 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

新製品開発等には結びつかなかったものの、関係団体の取組に対する支援を行うことにより共同開発・新製品開発に向けた基盤強化が図られました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	新製品開発や新技術の確立に取り組む気運の醸成を図りましたが、令和4年度に事業化に結びついた案件はなく、目標値に到達しなかったことから、「やや低い」と評価しました。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	新製品開発や新技術の確立は企業にとって容易ではないものの、目標達成に向けて企業の主体的な取組を支援することが重要なことから、貢献度は「やや高い」と評価しました。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	新製品・新技術開発、展示会への出展は競争力強化に必要不可欠ですが、市内製造業者は下請け事業が多いこともあって制度の利用実績が低迷しております。提案型企業が育つような環境づくりをどのように展開していくのが課題です。			
今後の方向性	地域産業の活性化を図るため、補助制度の活用促進や商品開発支援を今後も進めます。企業の考え、現状、ニーズなどの把握を強化したうえで、企業、企業団体、商工会や包括連携協定を結んでいる大学などとも課題を共有し、前向きに取り組んでいく必要があります。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや低い	一次評価のとおり。
貢献度	・当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			

# 第二次総合計画 後期基本計画 令和4年度事業 施策評価シート

作成年度	R4	区分	事後(決算)
------	----	----	--------

S D G 連 結	2 節 節 を ぜ ら に	4 質 の 高 い 農 産 物 を み ん な に	8 農 産 物 の 販 売 額 を も と も と	12 つ く る 責 任 つ か う 責 任	17 パ ー ト ナ ー シ プ で 目 標 を 達 成 し よ う
-----------------------	---------------------------------	---	---	--	--

## 1. 基本情報

施策分野	産業	評 価 担 当 課	部課名	産業経済部 農政課	
基本目標	4節 豊かな地域資源を活かした力強い産業を創るまちづくり		担当課長名	星野 崇	
主要施策	2項 魅力ある農林業の振興		関 係 課	農林整備課	学校教育課
施策名	1号 力強い農業経営の構築と地域農業の活性化				

## 2. 施策目的(目指すすがた)

生産基盤の整備や担い手への農地集積をすすめ、生産性の向上や担い手の育成により、持続可能で力強い農業経営の構築を推進します。

農産物の品質向上と生産拡大をすすめ、6次産業化、農商工連携、ブランド化により商品開発や販売活動を支援し、地域農業の活性化と農業者の所得向上を図ります。

農村環境と調和した農業生産と食の安全性向上の取組をすすめ、安心安全な農産物の生産と地産地消の取組を推進します。

新たな就農・就業者が、地域で培った技術や経営資産を円滑に事業継承が行えるように、受入体制や経営開始時の負担軽減の支援を行います。

## 3. 施策を構成する事業の事業費、取組内容及び評価

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費 累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
241	○	農林水産業総合振興事業	農政課	7,624	972	0				やや高い	C
		事業の取組内容	県の事業認定を経て単独事業を実施する団体へ間接的に県補助金を交付する。(令和5年度からNo251農業者育成支援事業に統合)								
243	○	中山間地域等直接支払交付金事業	農政課	193,273	192,905	194,220				高い	B
		事業の取組内容	耕作条件の劣る中山間地域の営農活動の維持全般に対して財政支援等を行う。								
244	○	生産調整対策事業	農政課	58,033	56,379	72,136				高い	B
		事業の取組内容	米の生産調整や経営所得安定対策を実施・推進する。								
247	○	多面的機能支払交付金事業	農政課	180,342	178,349	186,471				高い	B
		事業の取組内容	地域共同による農村環境の保全向上の取組を支援する。								
248	○	人・農地プラン事業	農政課	34,060	17,850	30,251				やや低い	B
		事業の取組内容	農地中間管理機構による担い手への農地集積と集約化を支援する。								
250	○	経営体育成支援事業	農政課	3,128	0	0				低い	C
		事業の取組内容	人・農地プランに位置づけられた中心経営体の農業用機械等の導入に対し補助を行う。(令和5年度からNo251農業者育成支援事業に統合)								
251	○	農業者育成支援事業	農政課	14,329	32,977	63,129				やや高い	B
		事業の取組内容	国県補助事業を利用して施設整備を行う農業者等に上乘せ補助を行う。								
254	○	新規就農者援助事業	農政課	1,200	1,200	0				やや高い	A
		事業の取組内容	新規就農者に補助金を交付し経営が軌道に乗るまでの間を支援する。(令和5年度からNo251農業者育成支援事業に統合)								

事業No.	重点事業	事業名		R3	R4	R5	R6	R7	事業費累計	担当課評価	
		予算科目	担当課	決算	決算	予算	予算	予算		貢献度	達成度
255		地域バイオマス施設整備事業		0	36,866	2,409				やや高い	B
		6   1   3	農政課								
		事業の取組内容		有機センターの施設改修や車両更新等を行う。							
259	○	農地農業施設整備事業		87,407	31,501	47,371				やや高い	A
		6   1   5	農林整備課								
		事業の取組内容		農業用施設の整備により生産コストの縮減を図り、持続可能で力強い農業経営の構築を推進する。							
482		学校給食支援事業		3,768	3,877	4,144				やや高い	A
		10   6   1	学校教育課								
		事業の取組内容		小中学校の全児童・生徒に魚沼産コシヒカリの給食を提供する。							

#### 4. 成果指標の達成状況（※成果を判断する客観的根拠）

No.	成果指標名		現状値	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	R7実績	最終目標値	単位	
	指標の説明										
1	農業担い手数		362 (R1末)	目標値	360	360	360	360	360	経営体	
	認定農業者、認定新規就農者			実績値	326	308					
				達成率	90.5%	85.5%	%	%			%
2	担い手への農地利用集積面積		2,404 (R1末)	目標値	2,700	2,750	2,800	2,850	2,900	2,900	ha
	農地中間管理機構を通じて担い手へ集積した面積			実績値	2,608	2,608					
				達成率	96.5%	94.8%	%	%	%		
3	新規就農者数		34 (H28～R1累計)	目標値	42	49	56	63	70	70 (H28～R7累計)	人
	新規就農者実態調査に計上される人数			実績値	53	62					
				達成率	126.1%	126.5%	%	%	%		
4				目標値							
				実績値							
				達成率	%	%	%	%	%		

#### 5. その他特記事項

--

## 6. 施策目的に向かってどのような成果があったのか

交付金や補助金を活用し、農地の保全、農業用施設・機械等の整備、導入の支援を行い農村環境の形成に寄与し、需要に応じた米生産を推進し、令和4年産コシヒカリの仮渡金、1等米比率の対前年比向上から、ブランド力の維持、向上を図り、市内小中学校の米飯給食の活用により地産地消の推進につながりました。

また、就農して間もない農業者4人への支援を行い、経営基盤の安定に寄与し、新たな担い手の育成につながりました。

## 7. 施策に対する評価（担当課の評価：一次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	認定農業者は増えていませんでしたが、新規就農者数は増えていることから担い手の育成につながっていると判断し「やや高い」と評価しました。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	新規就農者等への支援や施設整備、機械導入の支援により、課題である担い手育成や経営の安定化に寄与し、力強い農業経営の構築と地域農業の活性化のため各事業は有効であると判断しています。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	各事業に共通して担い手の育成が大きな課題であると共に、国の制度である水田活用交付金の交付対象水田の見直しが進められています。これらに伴う耕作放棄地等の増加が懸念されるため、各事業の実施にあたり、関係機関、団体、行政、農業者が一体となった取組が課題です。			
今後の方向性	引き続き、有効な現行事業を活用し生産基盤の整備や担い手育成と農地集積に向けた取組を進め、生産性の向上やブランド力向上から農業者の所得向上を図り、持続可能で力強い農業経営の構築と地域農業の活性化を図ります。そのために、各地域で活動しているそれぞれの農業経営体、営農組織などの支援拡充を図り魚沼市農業の維持発展に取り組めます。			

## 8. 施策に対する評価（行政評価会議：二次評価）

評価項目	評価の観点	評価	評価の理由	
施策成果の達成度	・ 施策及び成果指標について、どの程度達成できたか評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
貢献度	・ 当該施策の成果が「主要施策」へ貢献しているかという観点から評価を行います。 ・ 施策目標達成のための手段（事務事業）の構成は妥当かという観点から評価を行います。	高い やや高い やや低い 低い	やや高い	一次評価のとおり。
総合評価	目標に向かって進捗しているため、引き続き施策を推進する。	大きな変更はないが、細かな見直しを行いながら引き続き取組を進めていく。	現状維持	○
		新たな事務事業の追加や予算等の投入など取組を拡充する。	拡充	
	目標を達成するためには、事務事業の見直しや改善をする必要がある。		改善・見直し	
課題	一次評価のとおり。			
今後の方向性	一次評価のとおり。			



	F(		fl
--	----	--	----

G	65
8	4
:	q

%

	(				
	&				
	&				

&

--	--

' "

		F	F(	F)	F*	F+		
& ,	* & &	) (	) ) %	&ž- S				
& S	* & &	%ž, &	- ž, (	(+ž' %)				
& %	* & &	&&žS, %	&ž) +	S				
& *	* & &	% ž&( S	%ž S)	%ž' &				
& +	* & &	' ž&(	&ž- * S	)ž++*				
& S	* & ' &	*' ž' +'	' , ž) *(	)%ž' * &				

("

Bc"		F	F(	F)	F*	F+		
%	)- fk-& F% L	* (	* ,	+&	+*'	, S'	, S	Ç
&		%ž+', 1	%ž' " (1					









































































































































